

EVANGELION

CHRONICLE

エヴァンゲリオン・クロニクル

専用バインダー
発売中



Mechanic Sheet
エヴァンゲリオン零号機 Ⅰ
国連軍兵器 Ⅰ

Character Sheet
綾波レイ Ⅰ
国連軍高官

Tactics Sheet
零号機起動実験



綾波レイ
限定フィギュア誌上通販

Installation Sheet
NERV Ⅰ
Timeline Sheet
NERV、誕生
Technology Sheet
アンビリカル・ケーブル
Extra Sheet
用語辞典／企画書／トピックス



02

定価 690円 (本体657円)
2006/8/1

EVANGELION

CHRONICLE

02

目次 | CONTENTS

Mechanic Sheet メカニックシート

エヴァンゲリオン 零号機 Ⅰ

01-04

国連軍兵器

09-10

Character Sheet キャラクターシート

05-08

綾波レイ Ⅰ

11-12

国連軍高官

Timeline Sheet タイムラインシート

NERV、誕生

13-16

Tactics Sheet タクティクスシート

17-18

零号機起動実験

Installation Sheet インストールシート

NERV Ⅰ

19-20

Technology Sheet テクノロジーシート

21-22

アンビリカル・ケーブル

Extra Sheet エクストラシート

用語辞典

23-26

企画書

27-28

トピックス

29-32

エヴァンゲリオン・クロニクル

専用バインダーのお知らせ



「エヴァンゲリオン・クロニクル」は、各シートを切り離し専用バインダーにファイリングしていくと、エヴァンゲリオン大百科が完成します。この専用バインダーを全国の書店で販売中です。ぜひお買い求めください。

価格1,600円 本体1,524円+税

※最終的にエヴァンゲリオン大百科が完成する際には合計3冊になる予定です。

発行日 2006年8月1日
 発行人 鈴木徹也
 発行 株式会社ウィーヴ
 〒102-0075 東京都千代田区三番町8-1
 発売 株式会社ソニー・マガジズ
 〒102-8679 東京都千代田区五番町5-1
 印刷製本 大日本印刷株式会社

落丁・乱丁本はお取り替えいたします。
 定価はカバーに明記してあります。
 Printed in Japan

編集 株式会社 ウィーヴ(石川裕人/田代豪)
 有限会社 メガロマニア(富田英樹/高村泰穂/渡邊洋三/
 加藤和弘/山田展寛/桑木貴章/鈴木秀治/公森直樹)
 執筆 TRAP(西川紗矢/遠藤智子)
 イラスト 市川裕文/深野洋一(M.I.C.)/射尾卓弥/kmyu
 デザイン ローカル・サポート・デパートメント(島田英明/角田正明)
 株式会社 インフォビジョン(河野幹哉/安川純史/阿部将之)
 監修 株式会社 ガイナックス

©GAINAX・カラー/Project Eva. ©GAINAX・カラー/EVA製作委員会

- 読者お問い合わせ先(制作部)
TEL: 03-5211-6261 (平日 13:00~18:00)
- 落丁・乱丁本に関するお問い合わせ先(お客様相談係)
TEL: 03-3234-7375 (平日 10:00~17:00)
- 書店向け/エヴァンゲリオン・クロニクル受注センター
TEL: 03-3222-8701 (平日 10:00~17:00) FAX: 03-3222-8861

定期購読の御案内

「エヴァンゲリオン・クロニクル」は、毎月1日と15日発行の雑誌です。確実に全号がお手元に届くように、定期購読をお勧めいたします。最寄りの書店で定期購読または予約購読をご用命ください。また、小社を通じて直接定期購読をご希望の場合は、以下のいずれかの方法でお申し込みください。

1. フリーダイヤル(受付時間 平日9:00~18:00)
☎ 0120-721-040
2. ハガキまたはファックス
巻末の定期購読申込ハガキをポストに投函いただくか、そのページをそのままファックスで送信してください。
フリーファックス(24時間受付)
☎ 0120-721-358
3. インターネットまたは携帯電話(24時間受付)
http://www.sonymagazines.jp/eva/
携帯電話から
iモード ▶ http://www.catchbon.jp/i/
au ▶ http://www.catchbon.jp/ez/
vodafone ▶ http://www.catchbon.jp/v/

新世紀エヴァンゲリオン by 角川マガジンズ

エヴァンゲリオンのリアルタイム情報はこちらで!

- PCサイト
▶ http://www.gainax.co.jp/anime/eva/
携帯サイト ▶ http://wpp.jp/eva/ ココからGO!
エヴァンゲリオン オフィシャルストア
▶ http://www.evastore.jp/





汎用人型決戦兵器
人造人間 エヴァンゲリオン

零号機



EVA-00

PROTO TYPE



E計画のヒナ型たる 試作機

メカニカシート
Mechanic Sheet

エヴァンゲリオン 零号機
EVANGELION PROTO TYPE 1

Sheet

02



Scan by robuntou

14年の歳月を経て完成した EVAシリーズ試作機

南極で発見された光の巨人を人類自らの手で復活させるべく始動した「E計画」、別名「アダム再生計画」。「E」は「EVANGELION」の頭文字と推測され、表面上の目的は使徒迎撃用の汎用人型決戦兵器・人造人間エヴァンゲリオン建造とされる。2000年前後に開始された「E計画」だが、2003年に碓ゲンドウが冬月コウゾウを箱根地下へ招いた時点で、すでに零号機の頭部と脊髄部分の複数の試作パーツが、冬月によって目撃されている。しかし、この時点ではまだ完成には程遠い状態であり、実用化されるまでにはそれから実に10年以上の月日を必要としたのだ。

そして、「E計画」発動から14年、天文学的な予算を費やして、ついに完成したのが零号機である。しかし、プロトタイプゆえに未知の部分も多く、最初の起動実験時に暴走。以降は特殊ベークライトで凍結保存されていたが、15年振りの使徒来襲に伴い再起動実験が行われ、第5使徒ラミエル戦で初出撃を記録している。零号機のみボディカラーが2種類存在するが、山吹色の装甲は使徒の加粒子砲により溶解。次の出撃時には青い装甲へと換装された。



ラミエル戦より実戦配備された零号機。最初の任務は戦略自衛隊つくば技術研究本部にあるポジトロンライフルの回収だった。

ラミエルの加粒子砲により装甲は溶解。以後は青い装甲へと換装される。よって山吹色ボディでの実戦は、ラミエル戦のみとなる。



DATA

機体: EVA-00 PROTO TYPE

零号機

搭乗者: 1st Children

綾波レイ

主武装: WEAPON

なし

機体配色: COLOR



前面 FRONT

背面 BACK

関連事項 RELATED

- 綾波レイ
- 碓ゲンドウ
- アダム
- E計画



ファーストチルドレン綾波レイ。過去の経歴はすべて抹消されているため、その出自すら謎に包まれている。

われわれのアダム再生計画。
通称 **E計画** のヒナ型たる
EVA 零号機だよ(碓ゲンドウ)

試作機と

プロトタイプとして実験やデータ収集に用いられるのは旧海軍の試作機である。起動実験では暴走し事故を起こしてしまう。機体へと活かされる。零号機の特徴として、ブレードなどの内蔵装備にも未対応の点であろう。しかし、その試作機と何ら違いはシステムやアンビリオン設計思想も同一で、零号機らと同様の装備



零号機完成に至るまでの失敗作が建造されたプロトタイプはすべて山吹色で完成した零号機は単色だが中には5つ眼のものも

EVA専用

NERVは第5使徒ラミエルを発生。ポジトロンライフルを防御するため、零号機の際、ラミエルの攻撃の装備として急ピッチで開発された光波防御兵器である(ORBIT)。これを改造したことで、入時の高温にも耐えられるようインテグレーションを施されている。防御力を有している。を受け止めたが、最終的に溶解している。

→盾前面

試作機としての零号機

プロトタイプとして建造された零号機は、実戦よりも実験やデータ収集がその主な目的とされた。機体が山吹色なのは旧海軍の練習機の慣習に従っているためと思われる。試作機ゆえに未知数な部分も多く、最初の起動実験では暴走し、パイロットが負傷するという大事故を起こしてしまう。だが、その際の実験データは以降の機体へと活かされ、EVAシリーズ運用の礎を築いた。

零号機の特徴としては、実験機ゆえにプログレッシブ・ナイフなどの内蔵武装がない点が挙げられる。D型装備にも未対応なのは、本機がプロトタイプたる由縁であろう。しかし、その基本性能においては初号機や式号機と何ら違いはない。エントリープラグによる操縦システムやアンビリカル・ケーブルによる電源供給など設計思想も同一である。そのため、ヤシマ作戦後は初号機らと同様の装備を施され、実戦配備された。



零号機の起動実験は、NERV本部第2実験場で行われた。電源供給当初こそ順調だったが、のちに零号機のパルスが逆流。制御不能に陥ってしまい、大事故へと発展する。



零号機完成に至るまでには、数多くの失敗作が建造されていた。プロトタイプはすべて山吹色で塗装。完成した零号機は単眼だが、失敗作の中には5つ眼のものもあった。

装備と性能

初号機、式号機と比較すると零号機は若干シンプルな外観となっている。特に肩のデザインにその傾向が顕著なのは、プログレッシブ・ナイフが標準装備されていないため。また、頭頂部の電磁波アンテナは剥き出しになっているなど、実戦には不向きな仕様が幾つか見られる。しかし、基本性能は初号機や式号機と大差なく、実戦にも耐えうる能力を持つ。



基本的に頭部と肩部以外は初号機と同様で、基本性能はほぼ同じ。エントリープラグも基本設計通りに延髄付近から脊髄へと挿入される。

実験機

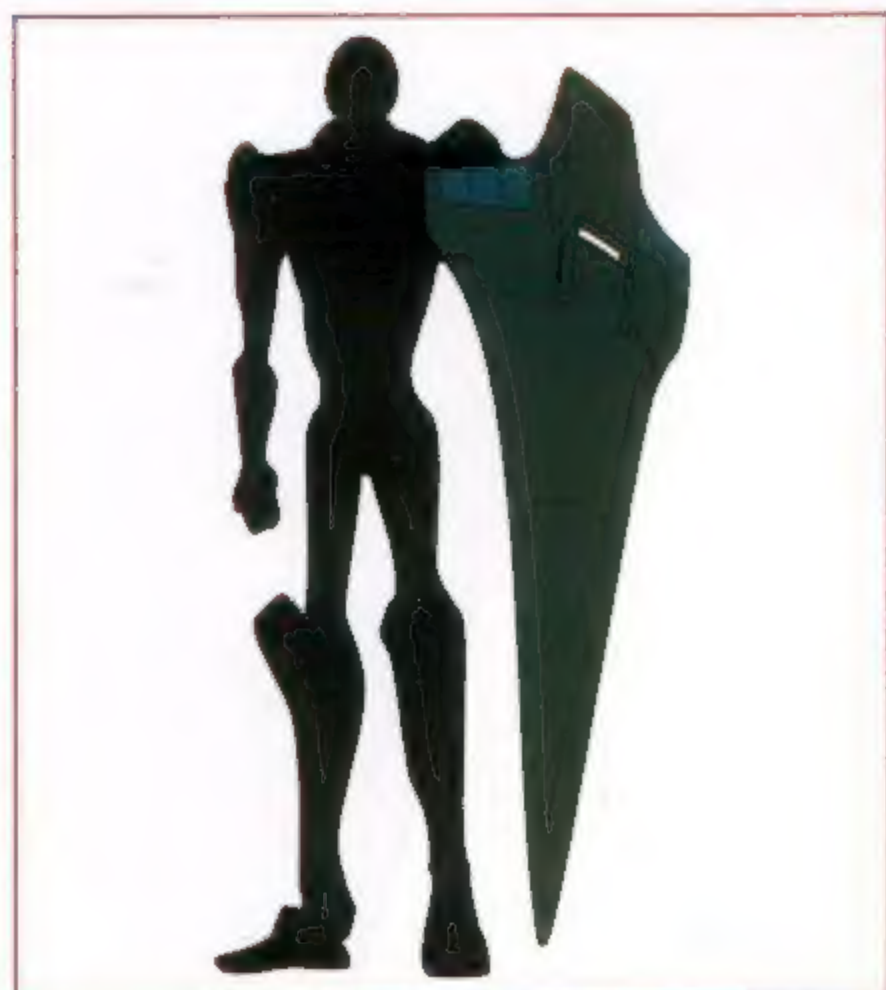
零号機は様々な実験に使用され、そのデータは以降の機体へとフィードバックされていった。だが、いずれの実験にも前例はなく、想定外の事故が発生する危険性もはらんでいた。実際、初の有人による起動実験では制御不能に陥り暴走。実験場の破壊、および操縦者が負傷するという事故へと繋がっている。暴走の原因は今も不明だが、操縦者の精神的不安定が第一要因とされている。



零号機は初の起動実験で暴走。零号機を固定していた拘束具を壁ごと引きちぎり、コントロールルームを破壊寸前に追い込んだ。

EVA専用耐熱光波防御兵器 (急造仕様)

NERVは第5使徒ラミエル迎撃のためにヤシマ作戦を立案。ポジトロンスナイパーライフル担当の初号機を防御するため、零号機はついに実戦配備される。その際、ラミエルの放つ加粒子砲に対抗すべく零号機用の装備として急ピッチで製作されたのがEVA専用耐熱光波防御兵器である。元はSSTO (SINGLE STAGE TO ORBIT)、いわゆる単段式宇宙船の船底パーツで、それを改造しただけのもの。それでも従来大気圏突入時の高温にも耐えうる素材の上、超電磁コーティングを施されているため、充分加粒子砲に耐えうる防御力を有しているとされた。実戦では見事加粒子砲を受け止めたが、限界時間を超えての使用に盾は溶解している。



零号機・盾対比図



ヤシマ作戦にて初めて実戦に赴く零号機。その任務は初号機の防御だったため、これといった武装は装備せず、急ピッチで製作された盾のみを装備して戦地へと向かった。



理論上、盾はラミエルの加粒子砲に17秒間耐えうるとされた。ただし、ラミエルの加粒子砲は17秒以上連続射出可能なため、最終的には盾もろとも零号機の装甲も溶解する。



SSTOの底部パーツをそのまま流用、覗き穴と取っ手を付けただけでもいえる急造仕様。盾前面には離陸装置カバーやスクラムジェットの跡も残っている。



頭頂部にはふたつの電磁波アンテナを装備。前方のアンテナはカバー付きだが、後方のものは剥き出しのため、やや防御性能に問題があるようだ。

失敗作

零号機完成までには様々な失敗作が建造され、NERVの地下にあるターミナルドグマには、頭部と脊髄のみの山吹色の機体が数多く放置されていることが確認されている。その異様な光景はまるで墓場のようだが、各失敗作にはそれぞれ特徴があり非常に興味深い。最終的に光学レンズは単眼となった零号機だが、失敗作の中には双眼、複眼の頭部などがあり、その試行錯誤のほどがうかがえる。それでも建造開始からわずか数年たらずの2003年時に、すでに頭部と脊髄の原型が確認されているだけに計画当初からその青写真は確かなものだったと言えるだろう。



完成まで14年の歳月を必要としたエヴァンゲリオン。その過程では様々な失敗作もあり、膨大な予算と犠牲を必要とした。

特記事項

ファーストチルドレン綾波レイ

エヴァンゲリオンの最初の適格者であり、ファーストチルドレンと呼ばれる零号機の専属操縦者。過去の経歴は抹消されているため、EVAの操縦者に選出された過程などは一切不明だが、彼女は自分が零号機に乗る理由を「人との絆」と話す。無口で感情表現に乏しい少女だが、碓ゲンドウにだけは笑顔を見せるほど心を許していることもあり、彼との「絆」は極めて強いようだ。また彼女自身重傷を負った起動実験の事故の際、碓ゲンドウに救出され、そのときに彼が落とした眼鏡を大切に保管していることから、その想いの深さが伺える。

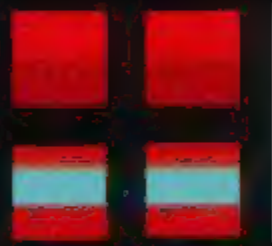


起動実験の事故では、碓ゲンドウにより救出された。





任務を
最優先する



NERV



1st Children

綾波レイ

REI AYANAMI

感情の
希薄な少女

個人情報

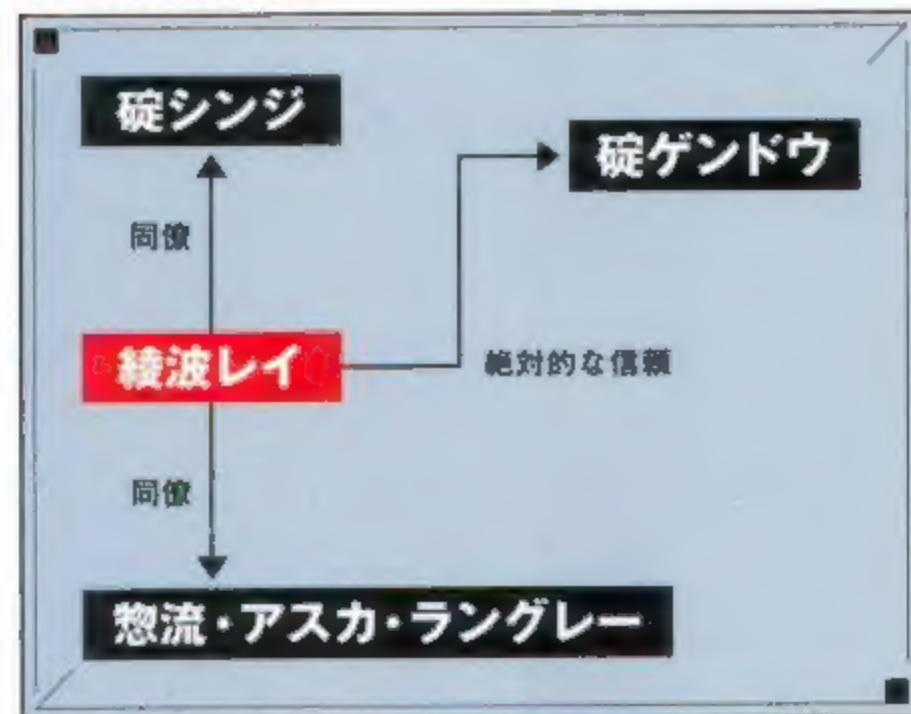
名前	綾波 レイ
年齢	14歳
国籍	不明
生年月日	不明
血液型	不明
所属	NERV/EVA零号機専属操縦者

人類補完委員会直属の諮問機関マルドゥック機関の報告書によって選ばれ、汎用人型決戦兵器・人造人間エヴァンゲリオンに最初に足を踏み入れた操縦適格者、ファーストチルドレン。それにも関わらず、過去の経歴をはじめとする一連の個人情報が抹消されている謎の少女——。それが、綾波レイである。

レイは世界で最初に建造されたEVA零号機の開発、実験段階から操縦訓練を受けていた。だが、NERV本部第2実験場において行われた最初の起動試験の際、零号機は彼女の制御を離れ暴走。実験は失敗に終わり、本人も重傷を負ってしまう。さらにはその傷も癒えないうちに第3使徒が襲来。サードチルドレン碓シンジが使徒迎撃を拒んだため、その代役として出撃を命じられる。NERV、特に碓ゲンドウから下される命令を決して拒否することのないレイは、苦痛に呻きながらも出撃しようとする。その姿が図らずもシンジの心を動かし、EVA初号機の搭乗を決意するための後押しをすることとなる。

事実上の専属操縦者と言えるレイが操る零号機は、プロトタイプゆえに扱いがデリケートである上に、装甲や装備といった点で初号機、式号機には劣っている。そのためか、使徒との戦闘でも命令がない限りは積極的に攻撃役にまわることは少なく、防御やサポート的な役割をこなすことが多い。しかし、他人との絆を守ることを望む彼女にとって、それは丁度いいポジションなのかもしれない。事実、操縦適格者たち、特にシンジとの出会いによって新たな絆が生まれてからは、少しずつ感情が開かれていく。

人物関係図



関連事項

- 碓ゲンドウ
- EVA零号機
- 碓シンジ
- NERV



NERV最高司令官。目的のためには手段を選ばない冷酷さと独善的な思考の持ち主で、その行動には謎めいたところが多い。

表情



←白い肌、青色の髪、赤い瞳といった外見は、彼女の存在自体の特異性を想起させる要素のひとつでもある。



無趣味なように見えるレイだが、本を読むことは好きらしい。度々ひとりで読書する姿が見かけられる。



←無表情な横顔。普段から感情が顔に表れることは少なく、表情から彼女の考えを読み取ることが難しい。

←歳相応の少女らしさをわずかに感じさせる、驚いたような表情。ただし、この程度の感情表現もごく稀だ。



倒れているシンジを見下ろし、ひと言だけ声をかけて去るレイ。その事務的な言動は、冷ややかさを感じさせる。

制服

背面



←中学校の女子制服。薄い水色のジャンパースカートと、白いシャツのシンプルで爽やかな組み合わせ。

正面



←プライベートでも制服で過ごしていることが多い。私服の持ち合わせについては、所持しているかも不明だ。

綾波レイ

という存在



←普段は見るできない「もうひとつの可能性」とでもいうべき、ラフなポーズをとるレイ。

→第3新東京市立第壹中学校に通うレイの姿。シンジらと同様に、NERV施設内においても常に制服を着用している。



←レイが使っている、第3新東京市立第壹中学校指定の靴と上履き。そのデザインから、当時の一般的な中学生の姿が垣間見える。

どのような危険な任務であっても、重傷を負っていても、命じられればEVAに搭乗して使徒を迎撃する——。NERVが下した命令を、その内容に関わらず忠実に実行しようと試みるのがレイである。

彼女は同じ操縦適格者であるシンジに「なぜこれ(EVA)に乗るの?」と問われた際、「絆だから」と答える。普段はほとんど感情を示さず、必要以上の言葉を発することのないレイは、さらに「私には、他に何も無いもの」とも言い切る。何も無いからこそ、その身体を省みることもない——。そんな何も持たない彼女が唯一守ろうとするものが、EVAに乗ることにより築かれる「みんなとの絆」、すなわち他者との繋がりにある。それは、希薄な自身の存在理由を見出そうとする行為とも取れる。彼女にとっては、EVAに乗ることが自らのすべてなのだ。

他の操縦適格者たちとの出会いによって少しずつ感情が開かれていく様子は、見方を変えれば何もないというレイの内側に、絆で繋がれた人間たちが感情を植えつけていく作業のようにも見受けられる。



陽炎の中、通路の真ん中に行むレイ。直後にその姿が消えたため、実際にそこにいたかは不明だが、これが初めてのシンジとの出会いとなった。

教室の窓際の席に座るレイは、よくひとりで外を眺めている。怪我をしていても、話しかけてくる友人はいない。



集団に加わることはなく、体育の授業中も楽しそうにはしゃぐ女子たちと距離を置き、ひとりで座っていた。

レイの生活の様子を垣間見ると、ほとんどの時間をひとりで過ごしている。学校でもクラスメイトと会話をする様子は見られず、自室に友人が訪ねてくることもないなど、他者との交流は見られない。

その特殊な人間関係の要因としてあげられるのが、彼女の寡黙な性格である。普段のレイは他人を意識的に避けているわけではないようだが、感情をほとんど表さず、必要以上の会話をしない。その結果として、他者との接触が妨げられているようだ。EVAに乗ることがみんなとの絆であると口にしてきた彼女だが、直接の接触によって積極的に他者との繋がりを作ろうとはしていないようだ。

寡黙さが与える影響

特殊な生活環境の意味



制服が脱ぎ捨てられている上に枕は血に塗れている。任務に関係ない部分は、どこまでも気にかけないようだ。



シンジに風呂上りの姿を見られたレイ。さらにそのまま重なり合って転んだものの、彼女は気にするそぶりも見せない。

コンクリートが打ちっぱなしのひび割れた壁、アルミのベッド、チェスト、冷蔵庫、黒いカーテン。レイが住む部屋を構成する要素はそれだけである。生活するに必要最低限のものだけが置かれたその部屋は、汚れた包帯や履き物などでひどく散らかっている。身の回りを清潔に保つことはレイにとってさほど重要なことではないようで、そういった面からも「物」に頓着することのない彼女の性格が窺える。これらの要素は、自らを「何もない」というレイの、内面の発露とも考えられる。ただ、チェストに置かれたゲンドウの割れた眼鏡だけが唯一特別な存在であり、彼女の部屋の中で異質な存在となっている。

司令 碓ゲンドウ との関係

零号機再起動実験前に、前回の実験でのゲンドウを思い出して微笑むレイ。ゲンドウに対する信頼は非常に厚い。



わざわざ向き直り、背後にいたシンジの頬を叩くレイ。ここまで強い感情を露出させることは非常に稀だ。

↓→NERV最高司令官という立場にありながら、レイと同様に謎めいた部分が多いゲンドウ。指先で眼鏡を押し上げる癖がある。



←冷酷な視線を向けるゲンドウ。これはあくまで表の顔であり、レイには他の人間とは違う態度で接する。

非常に寡黙で表情を表に出さないレイも、NERVの最高司令官、碓ゲンドウにだけは心を開いている。その存在は、シンジとの交流が深まるまでは、彼女の希薄な感情を左右する唯一の存在となっている。ゲンドウに対し絶対的な信頼を寄せているレイは、あたかも世界にはゲンドウ以外は存在しないかのように彼に付き従っている。

零号機の起動実験時の事故を引き合いに出し、EVAに乗るのが怖くないのか、とシンジに問われたときも、レイは彼に向かって「信じられないの？ お父さんの仕事が」と投げかける。さらに父親への不信感を口にしたシンジに対し、レイは怒りをあらわにした表情を浮かべ、彼の頬を強く叩いた。事故当時、ゲンドウは自ら加熱したハッチを素手でこじ開けてレイを助けた。そういった経緯もあり、助けられた彼女にとってシンジの言葉は許せないものだったのだろう。こうした行動は普段のレイからは想像もつかないもので、彼女がいかにゲンドウを特別視しているかを如実に物語っている。

なお、ゲンドウと直接会話する際には、レイは笑顔すら見せる。ゲンドウもまた彼女の前では、普段の冷徹な姿とはほど遠い、人間らしく、柔らかい表情を見せることがある。決して他者の前では見せることのない姿をさらけ出すふたり——。その関係の詳細は不明だが、ふたりの間には「司令官と部下」とも「親子」とも違う、特別な絆があるようだ。



NERVに向かって歩くレイと、離れて後ろを歩くシンジ。ふたりの隙間の長さには、そのまま心の距離が現れている。

シンジの言葉に、笑顔を見せるレイ。ゲンドウ以外の人間に笑顔を向けたのは、これが初めてではないだろうか。



ゲンドウの息子であり、操縦適格者でもあるシンジ。彼にとってのレイはクラスメイトであり、自分よりも早くからEVAに乗っている存在。父親と親しいという部分も気になるようだ。

一方、レイにとってのシンジは、同じ操縦適格者というだけの存在だったが、ヤシマ作戦前後からその意識は変わり始める。内容はともかく、ゲンドウの存在を媒介にしつつ会話し、さらに使徒殲滅後にエントリープラグから救い出してくれたシンジ。その姿に同じように助けてくれたゲンドウを重ね合わせる。それ以降、レイはわずかながらシンジにも心を開いていく様子を見せるようになる。

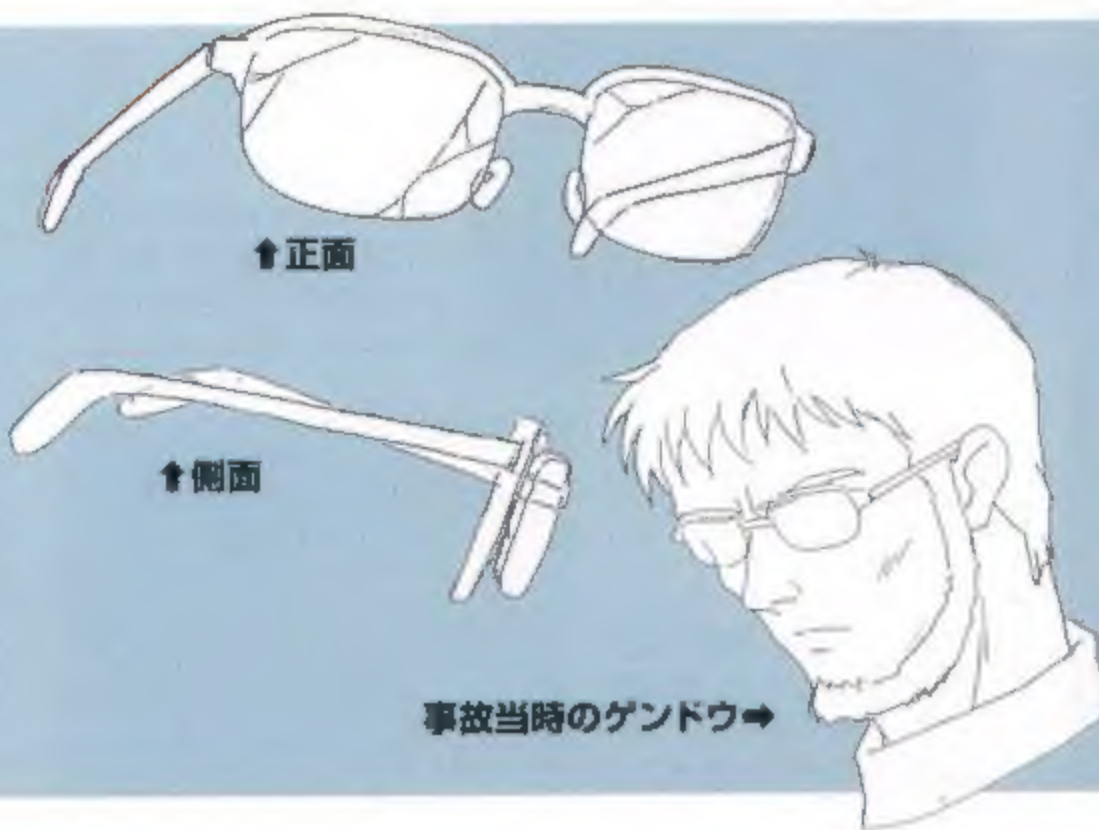
適格者 碓シンジ との関係

特記事項

壊れた眼鏡の意味

レイの自室にあるレンズの割れた男性用の眼鏡。これは、零号機の最初の起動実験中に事故が発生した際、レイを助けに来たゲンドウがかけていたものだ。その眼鏡を拾ったレイが、事故当時の状態のままこれを所有、保管していたものと思われる。病院などで眼鏡を膝に乗せている場面も見かけられることから、どうやら自室に置きっぱなしにしていくわけではなく、持ち歩くこともあるようだ。

余談だが、彼女の自室にて眼鏡をかけたシンジを見始めた際、レイはかなり強引に眼鏡を取り返そうとした。物に執着するところを見せない彼女にとって、それは非常に珍しい行為である。彼女にとって割れた眼鏡は、ゲンドウとの絆が形として確認できる貴重なものなのかもしれない。



割れた眼鏡をかけるシンジ。これを見たレイは、微妙ながらも非難するような表情を浮かべて眼鏡を取り返す。



国連軍兵器1

UN重戦闘機



国連軍の

主力戦闘機

国連軍が制式に採用しているVTOL機構を有した戦闘機。従来のVTOL機に多い単発エンジンではなく、左右の回転式ノズルに大出力エンジンを積んだ双発タイプで、2其のリフトエンジンを積むソ連のYak-38のコンセプトを汲んだ機体とも推測される。その重量から重戦闘機と称され、同じVTOL機であるハリアーとは比べるべくもなく、出力、ペイロード共に増強されているであろう。武装はロケットポッドとガンポッド。空対空戦闘の装備は見られないこと

から、推力に乏しいVTOL機の性格上、近接航空支援機としての役回りには変化はないと考えられる。

なお、VTOL (Vertical Take-Off and Landing) とは垂直離着陸の性能を持つ航空機を示す。この開発は第2次世界大戦まで遡り、実用化にこぎつけたのはイギリスの開発したハリアーが最初。また、エンジン推力のみでの上昇は燃費が悪く不安定なため、STOVL (Short Take Off and Vertical Landing) 短距離離陸&垂直着陸という運用もされている。



UN



EVANGELION
TOKYO3CN
Scan by robuntou

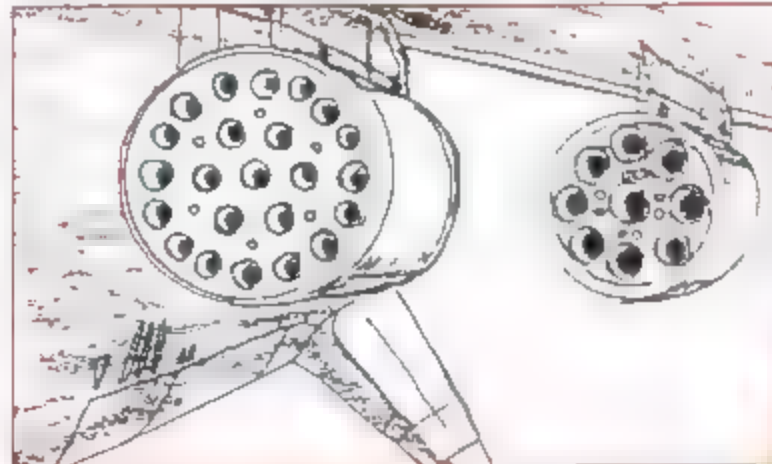
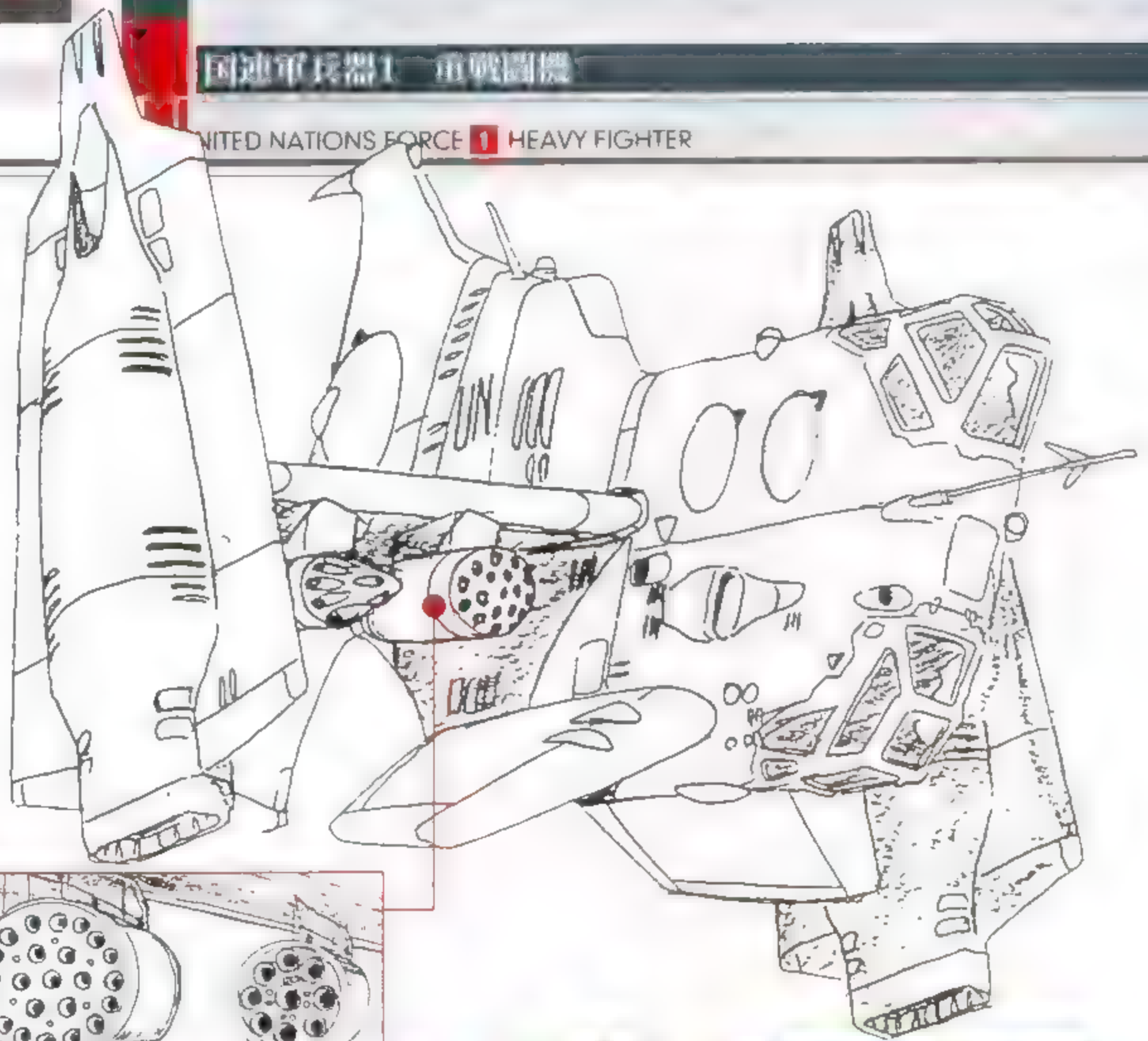
Heavy Fighter

機体性能

VTOL機であり離着陸に整地された滑走路が必要ないため、限られた空間での運用が可能。そのためセカンドインパクトによって荒廃した地では、より運用に適していたのだろうと考えられる。また、両翼にある回転式ノズルによって、通常の戦闘機には不可能なバックや低速移動ができる。このVTOL機独特のベクタード・スラストにより小回りが利き、急制動や急上昇といったトリッキーな機動もこなす。そのためドッグファイトに持ち込めれば空対空戦闘も制することが可能だろう。なお、機体は複座式になっており、操縦席とガンナーズシートが上下に分かれているものと思われる。



エンジンパワーのみで浮力を得るため 機体はできる限りの軽量化が図られている。そのためテラコートな部分は多いよって 後継フラグには「踏マナイ」の注意書きが記されている



ロケットポッド&ガンポッド

ロケットポッドとガンポッドを2門ずつ主翼に持つ。短時間で火力を大量投入し、目標地点を一気に制圧するための装備といえよう



運用実績

厚木、入間などの航空自衛隊基地に配備されており、航空戦力の中核を成す。基本的には対地戦闘、哨戒などに用いられており、近接航空支援機として大型機と同時運用されることが多い。兵器としての運用理論が意味を成さない使徒戦においても投入されたが、通常兵器が全く効かない相手に足止めすら不可能だったことを証明するに終わった。その戦訓を活かし、第七使徒イスラフェル戦においては敵の誘導などで活躍していた。また、戦闘だけではなく、VTOL能力を駆使して要人の移送などに広く運用されている。



VTOLの機動性を活かした包囲攻撃は、通常の相手ならば効果があったろう。しかし、使徒同様にA.Tフィールドを持ち、1万2千枚の特殊装甲を纏ったEVAには太刀打ちできなかった

戦闘

A.Tフィールドを持つ使徒とEVAには歯が立たなかったものの、NERV本部を襲撃した際は、レーダーサイトや迎撃システムの破壊といった対地攻撃にひと役買っている



遠距離攻撃の手段を持たず接近戦でしか火力を発揮できない重戦闘機。そのため通常攻撃の効かない使徒EVAに対しては兵器本来の力を発揮できず、格闘によって一方的に破壊されている。VTOL機もより高い機動性を持つEVAには無力だ

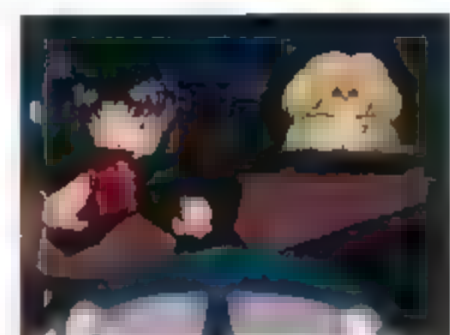


要人移送

VTOL機は小回りが利くため、要人の移送用としても運用されている。なお、同様に垂直離着陸できるヘリコプターよりも航続距離に優れている点が重宝される理由であろう



迅速な移動が必要な要人と、離着陸に場所を取らないVTOL機は必須の移動手段。



NERV仕様はキャビン、改良が施され、操縦席の背後に数人が乗れるようになっている

特記事項

機体バリエーション

NERVや戦略自衛隊にも配備されているのは優秀な機体の証といえよう。なお、運用する組織によって、それぞれ機体に改良が施されていると推測される。



NERV仕様は国連軍と同様のカラーで、尾翼部分に赤のラインがあり、戦略自衛隊仕様はグリーンの軍用塗装が施されている。

追加報告

ケンスケのスケールモデル

模型が造られるほどポピュラーな機体。しかし、ミリタリーマニアである相田ケンスケの持ち物であるということも考慮すると、彼の自作という可能性もある。



精巧なディテールを見るに、完成度の高い重戦闘機。国連軍仕様モデルだと見られるが、

■大型機

■国連軍

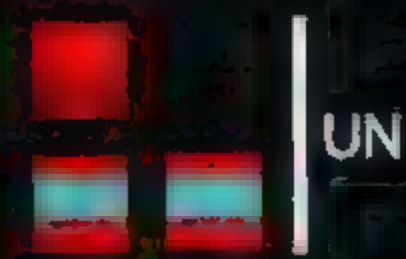
■戦略自衛隊

■NERV



重戦闘機のバックアップを受けることで敵目標、死角を作り、大規模のミサイルを命中させる戦法が見られる

前時代的な戦力と化した 世界規模の軍隊 を率いる高官たち



国連軍高官

HIGH OFFICERS OF
THE UNITED NATIONS FORCES

有史以来最大の厄災、セカンドインパクトによる地球規模の気候変動。これにより逼迫した状況に置かれた地域を中心に、紛争、武力衝突が勃発した。この状況を危惧した国連加盟国は、世界的秩序を守るため自国軍隊を国連に委託。各国の兵力を統合、再編成した国連軍が誕生する——。その強大な軍隊を陣頭で指揮しているのが、第3使徒襲来時に第2方面軍を率いた面々をはじめとする高官たちである。

しかし、セカンドインパクト後の動乱を収めたその強大な戦力をもってしても、使徒に対抗することは敵わなかった。対使徒戦の指揮権をNERVに委譲した後の国連軍は、使徒の早期捕捉、警戒、牽制をおもな任務とすることを余儀なくされる。



第3使徒襲来時、NERV本部の中央作戦指令室にて国連軍の攻撃を見守っていた高官たち。指揮権をNERVに委譲し、対使徒戦において第一線を退くことを余儀なくされた後は、府中総括総隊司令部の総合警戒管制室において使徒の捕捉に関わっている。その高官たちの顔ぶれはあきらかに中年から壮年であり、そこからは旧態依然とした年功序列型の組織体系が見て取れる。

ちなみに国連は、もともと国連軍の戦力で使徒を殲滅できるとは考えていなかった節がある。あらかじめNERVという組織を創設していたことがその証しであり、第2方面軍による第3使徒迎撃戦は、NERVの存在意義を公に認めさせるための策応だったとみられる。意実、保有兵器中最大級の火力を誇るM地雷でも使徒を殲滅できなかったことで、国連軍は否応なく脇役へと追いやられた。



特殊兵器M地雷の使用は高官たちの判断によるものではなく、第2方面軍の上位組織からの指示によるものだった。

追加報告

日本国政府および戦自との関係

第3新東京市周辺を統括する国連軍第2方面軍は、実質的には日本国政府の所有する戦力である陸上・海上・航空自衛隊によって構成されている。よって、国連軍第2方面軍の高官たちは、実際には各自衛隊の幹部という可能性がある。ただし、セカンドインパクト後の世界では、使徒迎撃を最優先事項とする国連主導の世界が構築されている。そのことを考慮すると彼らが国連から送り込まれた統括者とも考えられるため、高官たちの実際の所属については定かではない。なお、NERVも国連の組織ではあるものの、対使徒戦を想定した特殊機関であるため、第2方面軍はおろか国連軍そのものにも組み込まれていない。

ちなみに日本国政府の所有戦力には陸、海、空のほかにも、第4の自衛隊である戦術自衛隊がある。この隊は日本固有の軍事力保持を目的に編成されており、国連軍に編成されない特殊な戦力である。使徒の脅威に曝される当該地、第3新東京市を持つがゆえに、日本国政府は独自の備えを持つ必要にも迫られていたようだ。



総合警戒管制室において、使徒を早期に捕捉した国連軍の高官も、ちなみにこの際は、航空自衛隊（JASDF）の兵器を使用している。

- 国連軍
- 日本国政府
- M兵器



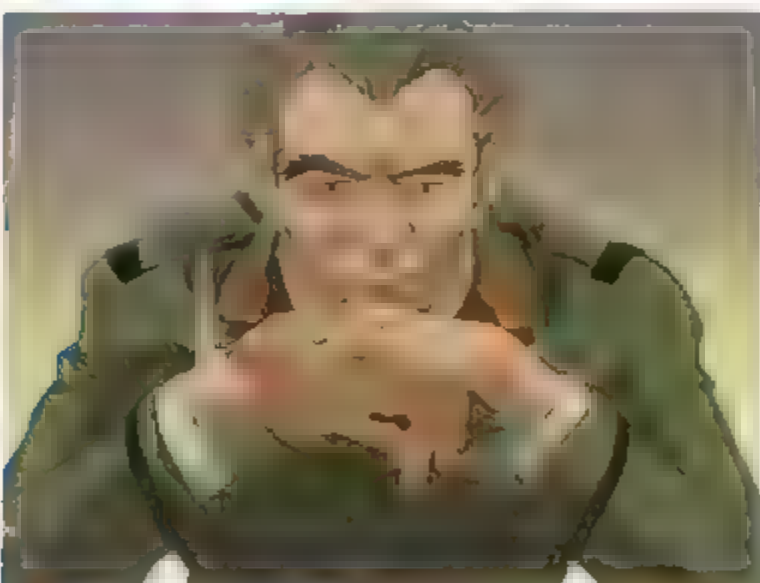
国連加盟国の所有兵力を統合、再編成した世界規模の軍隊。使徒襲来の早期捕捉、警戒、牽制をおもな任務としている。

国連軍の高官たち



↑ 第3使徒襲来時、国連軍の第2方面軍を率いた高官たち。第3使徒を迎撃し、のが陸上および航空戦力であったことから、それぞれの部隊の責任者、あるいはさら、上の立場にある面々と考えられる。

制服



↑ いかにも軍人といふ出で立ちの高官たち。これまでの世界を支えてきたという自負があるためか、超法規的な新生組織NERVの存在を快く思っていないように、言葉の端々に懐疑的な感情が見え隠れすることが多い。



新世紀年表

1110年 1111年
1112年 1113年

NERV 誕生
A DAY NERV WAS BORN

NERVの設立は、人類の存続を脅かす存在の出現を前提として行われた。NERVは、人類の存続を脅かす存在の出現を前提として行われた。NERVは、人類の存続を脅かす存在の出現を前提として行われた。

A.D.2004 ●ゲヒルン内

01 ゲヒルン地下施設でEVA初号機の起動実験が開始

人類の手による新たな生命が誕生する
2004年。箱根にあるゲヒルン地下第2実験場において、ある実験が開始されようとしていた。E計画に基づいて生み出された人造の巨人……エヴァンゲリオン初号機の起動実験である。これはプロトタイプとして作られた零号機に次いで開発された、テストタイプのエヴァンゲリオンであった。現場には、ゲヒルン所長の碓ゲンドウ、冬月副所長、赤木ナオコ博士などの関係者のほかに、ゲンドウの息子、シンジの姿も見られたが、それはゲンドウの妻、ユイの希望によるものだった。「この子には明るい未来を見せてやりたいんです。ユイは穏やかな声でそう述べたのだが……」



巨大なケースに収容された状態のエヴァンゲリオン初号機。肩の部分まで覆っているのは「生命のスープ」ともいわれる、LCLという液体である。

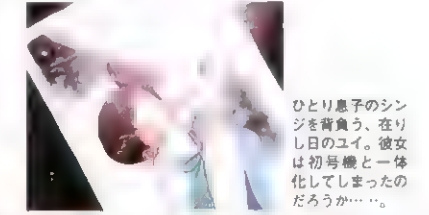


研究所内がものめずらしいのか、あちこち見回しては無邪気にはしゃいでいる幼いシンジ。このあと、母親の身に起こる悲劇を、シンジはまだ知らない。

A.D.2004 ●ゲヒルン内

02 ユイ、初号機に取り込まれる

皆が見守る中、起動実験が始まった。EVA開発に携わる生物学者であるユイは自ら初号機に搭乗し、神経接続に臨む。しかし、事故は起きた。突如としてシステムが制御不能に陥り、ユイが初号機に取り込まれてしまったのだ。すぐに彼女を救出するためのサルベージ作業が行われたが、結果は失敗。それは碓父子にとっては悲劇にほかならなかったが、ある人物——赤木ナオコにとっては、思わぬ犠牲ともいえるべきことだったようだ。彼女は、当時からゲンドウを慕っていたからである。

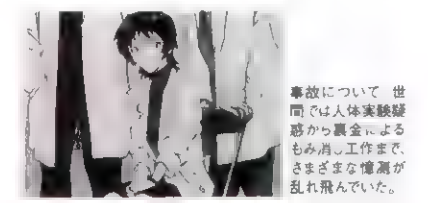


ひとり息子のシンジを背負う、在りし日のユイ。彼女は初号機と一体化してしまっただろうか……

A.D.2004 ●ゲヒルン内

03 ゲンドウ、行方不明になる

実験失敗のあと、妻を失ったショックのためか、ゲンドウはしばらく行方をくらましてしまう。もとはゼーレへ接近する手段としてユイに近づいたゲンドウだったが、夫婦としてともに過ごすうち、確かな愛情を抱くようになっていたようだ。一方、内部情報がどこからか漏れていたらしく、ユイの事故は実験のさなかの死亡事故として、いつか世間を騒がせることとなった。危険性を省みぬ非人道的な人体実験だったのではないかと、当時、ゲヒルンはかなり叩かれていたようだ。ゲンドウの不在は1週間を及んだ。やがて帰還した彼は、新たな計画に着手する。

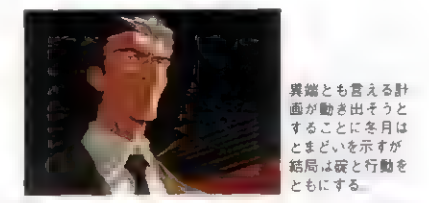


事故について、世間では人体実験疑惑から異議によるもみ消し工作まで、さまざまな憶測が乱れ飛んでいた。

A.D.2004 ●ゲヒルン内

04 ゲンドウ、人類補完計画を立案

失踪中にもどのような葛藤があったのか、ふたたびゲヒルンへ戻ってきたゲンドウは、以前の彼とは人が変わっていた。息子のシンジを人へ預けたゲンドウは、新たなプロジェクトを発動すると冬月に告げる。「人類補完計画」の始まりである。その概要は、「裏海文書」に書かれた予言をもとに、不完全な群衆である人類を補完、統合し、新たなレベルの単体生物へ人工的に進化させるというものだった。それはいまだかつて誰もなしえなかった神の所業への挑戦であったが、その真端とも言えるプロジェクトを、ゲヒルンの上部機構ゼーレは承認した。



異端とも言える計画が動き出そうとすることに冬月はとまどいを示すが、結局は碓と行動をともにする。

A.D.2005 ●第2新東京市

05 リツコ、ミサトと知り合いになる

のちのNERVを担う人物が集う
セカンドインパクトで東京が壊滅状態に陥ったあと、日本の首都機能は第2新東京市に移されていた。そこにある第2東京大学の学食で、赤木ナオコ博士の娘、赤木リツコは、ひとりの女学生と出会った。葛城ミサト。かつて南極調査に赴いた葛城調査隊のただひとりの生き残りである。大災害後、ミサトは2年間にわたり心因性失語症に陥っていたが、回復した今では、その反動のおしやべりになっていた。著名な科学者の娘であるリツコにミサトは物怖じせず、以降、ふたりは長い友情を育んでいくこととなる。やがて、リツコはミサトから付き合っている彼氏を紹介されるが、リツコは加持リョウジというその男をハンサムだと軽薄そうだと感じるのだった。



↑学生時代のミサトとリツコ。リツコは本来、母のナオコと同じ茶色の髪だったが、すでに金髪に染めていた。

ミサトは加持との生活に溺れていた。それは、父を失ったことによってできた心の隙間を埋める代償行為だったのかもしれない。



A.D.2005 ●ドイツ

06 EVA式号機、起動実験中に事故発生

首都機能を第2新東京市からさらに箱根へと移管しようという第2次運都計画が日本の国会で承認されたころ、ドイツの人格実験研究所において、ある事故が起きた。そこではEVA式号機の開発作業が密かに行われていたのだが、その起動実験中、ひとりの女性科学者が重度の精神汚染に冒されてしまったのだ。それはかつて箱根で起きた初号機の事故を誘発とさせるものだった。巻きこまれた科学者、惣流・キョウコ・ツェッペリンは、ただちに医療機関へ収容された。のちに意識を回復したものの、彼女の精神は崩壊してしまっており、二度と正常な状態には戻らなかった。



事故により精神が破綻したキョウコは、人形を娘だと思ひこみ、話しかけるようになった。

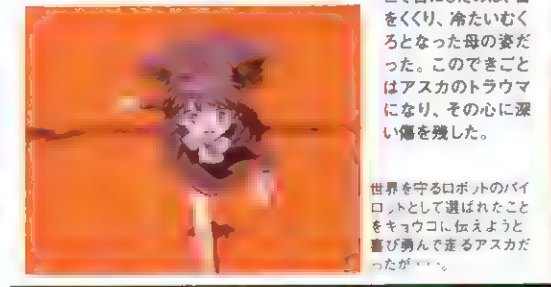
A.D.2005 ●ドイツ

07 アスカ、セカンドチルドレンに放逐される

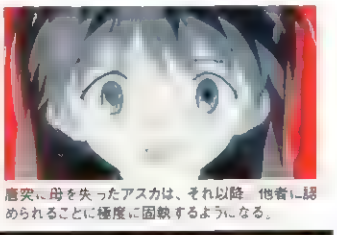
パイロット候補の少女を見舞った悲劇
精神汚染の被害者となったキョウコには、まだ幼い娘がいた。惣流・アスカ・ラングレー。自分を見ようとして、人形に向かって語りかけ続ける母親を目の当たりにして、アスカの心は深く傷ついていく。やがてアスカはセカンドチルドレンとして、EVAのパイロット候補に選ばれた。このニュースを伝えれば、母が自分を再び認めてくれるかもしれない——一縷の希望を胸に母親のもとへと駆けつけるアスカだったが、



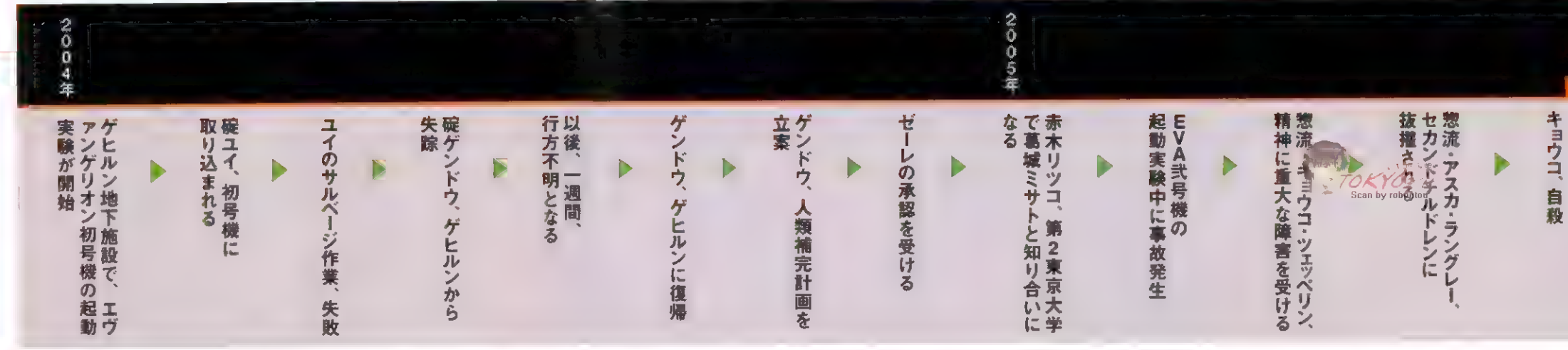
キョウコは、つい、自らの手で命を絶ってしまった。最後までアスカを見ないまま……



ここで目にしたのは、首をくくり、冷たいむくろとなった母の姿だった。このできごとはアスカのトラウマになり、その心に深い傷を残した。



唐突に母を失ったアスカは、それ以降、世者に認められることに極度に固執するようになる。



A.D.2008 4月1日 ●ゲヒルン

08 リツコ、ゲヒルンに入所

赤木ナオコ博士が第7世代コンピュータMAGIの基礎理論をなんとか完成させたころ、彼女の娘、リツコは第2東京大学を卒業、ゲヒルンに入所した。リツコは、仕事に熱中するあまり自分を省みない母に対して、複雑な感情を抱いていたようだが、結局、彼女もまたナオコと同じ科学者としての道を選んだのだ。技術開発部に配属されたリツコは、以降、E計画に従事していくことになる。母親譲りの明晰な頭脳をもっていたリツコは、ゲヒルン内部においてもめきめきと頭角を露し、やがてEVA開発作業の中心人物となっている。



ゲヒルンへと向かうリツコ。彼女とナオコは手紙のやり取りをする中で親子の絆をつないでいた。

A.D.2009 4月1日 ●ゲヒルン

09 ミサト、ゲヒルンに入所

リツコに続くようにして、ミサトもまた、ゲヒルンのメンバーとなっていた。彼女がアダムや使徒の調査機関であるゲヒルンへの入所を意図した背景には、セカンドインパクトで亡くなった父、葛城博士に対する複雑な愛憎があったようだが、当時、恋人の加持リョウジと別れてドイツに留学中だったミサトは、ドイツ第3支部に配属。そこで、EVA式号機のパイロットとして特殊訓練を受けていたセカンドチルトレン、惣流・アスカ・ラングレーと出会う。快活なミサトとアスカはすぐに打ち解け、親しく言葉を交わすようになっていった。

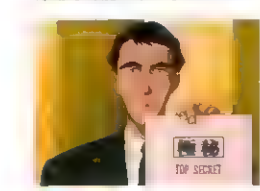


ドイツで出会ったミサトとアスカ。その数年後、日本へやってくるアスカは、ミサトの家の居候となる。

A.D.2009 ●日本

10 日本重化学工業、J.A.の開発に着手

国連の下部組織であるゲヒルンでEVA開発が進むなか、ある組織がEVAとはまた別の巨大兵器の開発に着手していた。日本重化学工業共同体による巨大人型自走兵器、「ジェットアローン」開発計画である。この計画のバックには日本政府がついていた。のちに「J.A.」という略称で呼ばれるようになるそれは、遠隔操作で動く無人兵器であり、小型原子炉の搭載により、長時間の稼働を可能にするものだった。



「自走人型兵器」ジェットアローン。その開発はEVAに対抗するように行われた。開発責任者の時田シロウ氏は、技術者としての自信と誇りをもって「JA開発」に取り組んでいたのだ。

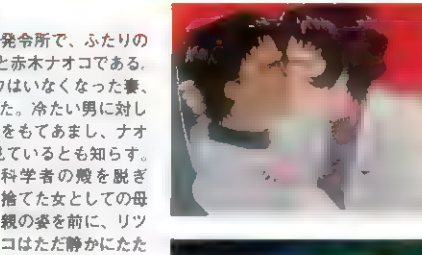
A.D.2010 ●ゲヒルン内

11 リツコ、ゲンドウとナオコの密会を暴露

母親の情事を娘は静かに見つめていた。ある日の深夜、ゲヒルン内部に新しく建造された発令所で、ふたりの男女がひそやかに会話を交わしていた。硬ゲンドウと赤木ナオコである。ふたりの肉関係は依然、続いていたが、ゲンドウはいなくなった妻、ユイのことをまだ忘れていないとナオコは感じていた。冷たい男に対して怒りを感じながらも、それでも抑え切れない情熱をもてあまし、ナオコはゲンドウに口付ける。その姿を娘のリツコが見ているとも知らず、



夜の発令所で言葉を交わすふたり。ゲンドウを愛していたナオコは、彼を愛する



母とゲンドウの様子を静かに見守るリツコ。その表情からは、彼女の心は読み取れない。彼女

ユイのことを忘れていたとしても構わない。ナオコはゲンドウに口付ける。だが、ゲンドウの腰は、どこか遠くを走っていた。

A.D.2010 ●ゲヒルン内

13 MAGI、完成

MAGIシステムがついに完成した。MAGIは個人の思考パターンを移植した「人格移植OS」を搭載した初の第7世代コンピュータで、メルキオール、バルタザール、カスパーという3基の独立したシステムで構成されていた。2004年の着工以来、のべ8,000人が参加し、320兆円にのぼる予算を費やした一大事業の完成であった。

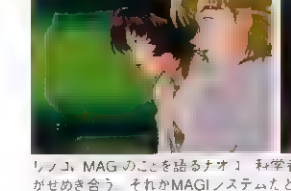


MAGIを構成する3基のシステムには、ナオコの科学者、母親としての人格がインプットされていた。MAGIは擬似人格同士の合議によって最終解答を決定する。それは人の持つレンマを故意に再現しようという試みだった。

A.D.2010 ●ゲヒルン内

14 ナオコ、レイと衝突

幼い少女から投げつけられた冷たい悪意。MAGIの開発という大きな仕事を終えたナオコは、発令所で感慨にふけていた。そこへゲンドウの養子、綾波レイが現れる。道に迷ったらしいレイにナオコは優しく語りかけるが、レイは「余計なお世話よ、ばあさん」と冷たい一言を投げつける。硬司令にしかかってもらおうと、怒りを抑えるナオコに、レイは歪んだ笑みを浮かべてみせた。「硬司令が言ったのよ。ばあさんはしつこいとか、ばあさんは用済みだとか」幼い唇からつむぎだされる毒に満ちた言葉。呆然と見やっしたレイの顔に、ナオコはユイの面影を見出した……



リツコ、MAGIのことを語るナオコ。科学者としての自分と母親としての自分とがせめぎ合う。それがMAGIシステムとつながる。やがて発令所にひとり残ったナオコの前に、レイが現れた。

A.D.2010 ●ゲヒルン内

15 ナオコ、投身自殺

科学者、赤木ナオコの悲劇的最後の瞬間。ゲンドウに利用されていただけだったと悟ったナオコは、衝動的にレイの首に手をかける。「あなたなんて、死んでも代わりがいるのよ」憎々げにつぶやくナオコ。やがて、我に返った彼女はぐったりとなったレイに気づき、絶望の果てに、ついにはMAGIの上に身を投げた……

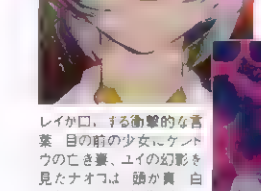


一有能な科学者だったナオコ。だが、その最後はあまりに悲惨なものだった。

A.D.2010 ●ゲヒルン内

16 NERV、誕生

MAGIの初起動後、人類補完委員会は調査機関ゲヒルンを即時解体。非公開特務機関、NERVとして新たに生まれ変わらせた。施設と人員はそのままNERVにスイッチし、司令にはゲヒルン所長であった硬ゲンドウが就任した。NERVは表向き、使徒の調査、殲滅のための組織ということになっていたが、その真の姿は、人類補完計画をはじめとするさまざまなプロジェクトを遂行するための実行機関であった。



NERV司令となったゲンドウは、人類補完計画の遂行を目指して突き進んでいく。

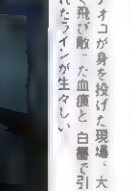


イチャクの旗をモチーフとしたNERVのシンボル。聖書のアダムとエヴァの記述に基づいてデザインされたものである。

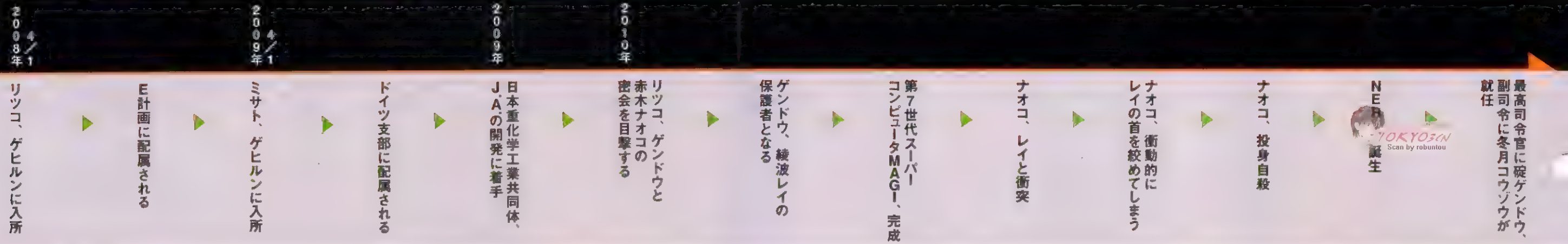
A.D.2010 ●日本

16 NERV、誕生

NERV司令となったゲンドウは、人類補完計画の遂行を目指して突き進んでいく。



イチャクの旗をモチーフとしたNERVのシンボル。聖書のアダムとエヴァの記述に基づいてデザインされたものである。



EVAの制御の困難さを立証した、
起動実験

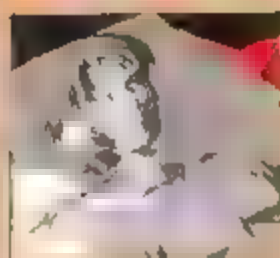
初号機と第3使徒サキエルによる戦闘の22日前（なぜ、このような曖昧な日時の表記となっているのかは不明。情報漏洩の防止、もしくは情報閲覧制限によるものと考えられる）、NERV本部第2実験場において、エヴァンゲリオン零号機の起動実験が行なわれた。

この実験は操縦者が機体を起動させ、さらに制御下におけるかどうかを検証するために行なわれたものと推測される。EVAシリーズでは操縦者と機体のシンクロも重要な要素となる。EVAと操縦者は文字通り「一心同体」であり、EVAとのシンクロなくして、起動や操縦、ましてや制御は絶対に不可能なのである。これは操縦者自身の資質や精神状態によるところが大きく、またEVAが操縦者を「受け入れる」か否かも重要なポイントとされている（最もEVAがどういった基準で受け入れているのかは不明だが……）。また、この起動実験は、2004年と2005年に行なわれているが、双方共に失敗。操縦者は肉体的、精神的に大きなダメージを受けたといわれる。2005年以降、実験が行なわれたという記録はなく、2015年、つまり今回が事実上、3度目の実験とされている。これは単に技術的な問題というだけではなく、操縦者がいなかったことも大きな理由と考えられる。

起動実験は赤木リツコ博士を中心として実施された。また、NERVの碓司令が立ち会うなど、零号機の起動はNERVにとっても最大の関心事であった。このように万全の態勢で行なわれたかに思えた起動実験だったが、不測の事態により状況は急変する。初期コンタクトまでは順調に進行していたが、突如、神経パルスの逆流が発生。制御を失った零号機はロックボルトを破壊、停止信号などあらゆるコマンドを拒絶すると、コントロールルームへの攻撃を開始した。この状況に対し、碓司令は実験の中止を命令、即座にアンビリカル・ケーブルが強制的に切り離された。その後、特殊ベークライトが注入され、零号機は事実上、凍結となった。こうして、NERV、そして人類の存亡にも関わるであろう、零号機起動実験は失敗、その原因は現在でも不明とされている。

RELATED MATTERS

- 綾波レイ
- EVA零号機
- NERV
- ヤシマ作戦



零号機の専属操縦者として起動実験も参加。しかし、実験の失敗により重傷を負った。

暴走した零号機は制御を失った。碓司令は実験の中止を命令、即座にアンビリカル・ケーブルが強制的に切り離された。その後、特殊ベークライトが注入され、零号機は事実上、凍結となった。こうして、NERV、そして人類の存亡にも関わるであろう、零号機起動実験は失敗、その原因は現在でも不明とされている。

タクティクスシート
actics Sheet

零号機起動実験

STARTING EXPERIMENT OF EVA-00

実験目的

今回の起動実験においては、操縦者と機体とのシンクロによる起動および制御が目的とされた。基本的なシステムは完成していたが、それが実用に耐えられるか否かを実証するには、今回の実験の成功は絶対であった。

主な実験目的

- #1 機体とパイロットの相性確認
- #2 機体を通してのボディ・イメージの確立

実験の概要

起動実験は大きくいくつかの段階に分けて実施された。第1段階は稼働電圧が臨界点に達するまで、そして第2段階では操縦者と零号機の神経接続とそれ以降——絶対境界線の突破までと思われる——の順序が行なわれる。これ以降もいくつかの段階があったことは間違いないが、絶対境界線を突破した直後に異常が発生、コントロールルーム側からの信号を拒絶した零号機は自律的とも思われる行動を開始した。それを受けた碓司令は実験の中止を命令、アンビリカル・ケーブルの強制排除、特殊ベークライトの注入などの保安手順により、零号機を停止させた。



パルスの逆流以降、神経素子の拒絶が発生するなど、事実上、制御不可能な状態となった。

実験後のレポートによると、その様子はまるで苦しんでいるかのように見えたともいう。



特記事項

失敗要因による一考察

後に赤木博士は実験が失敗した要因のひとつとして、「操縦者の精神的不安定」を挙げている。もしそれが事実であるとすれば、エヴァンゲリオンは人の心を知る機械ということになる。この段階では全てが推測に過ぎないが、赤木博士はそれらを裏付ける確信に近いものを推していたのだろうか。



実験の失敗から約一ヶ月後、再び起動実験が行なわれた。この実験は成功し、零号機は実験にも投入されている。

零号機の起動実験は、操縦者と機体とのシンクロ、そして制御などを目的としていた。しかし、それには科学の力をもっても図ることのできない不確定要素が内包されていたのである。

実験対象

TACTICS SHEET

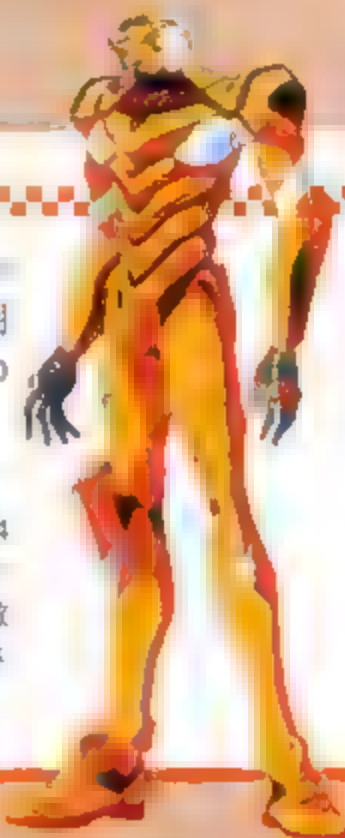
機体

エヴァンゲリオン零号機

エヴァンゲリオンのプロトタイプ。最初期に開発された機体だが、今回が初めての起動実験と思われる。



開発そのものは2004年頃から行なわれていた。本機以外、複数の失敗作があったとされる。

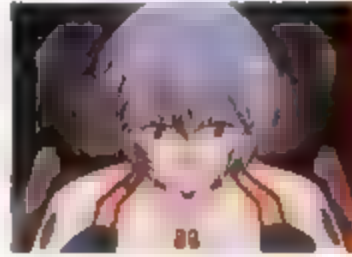


パイロット

綾波 レイ

マルチタスク機関によって選ばれた最初の適格者「ファーストチルドレン」として、零号機の専属操縦者となった。

ID番号以外、過去の経歴などは全て抹消されている。碓司令と行動を共にすることも多い。



碓司令の命令の下、起動実験はスタートした。マニュアル通りにシークエンスを消化、このまま順調に実験は進むかに思えたのだが……

起動実験の経過

1 起動実験開始——神経接続開始

実験の開始と共に、主電源を接続、起動システムが作動した。起動電圧が臨界を突破したことで起動システムは第2段階へと以降。その後、パイロットとの接合が行なわれ、初期コンタクトにも成功。この段階まで、起動実験は順調に進んでいた。



2 神経パルス逆流——零号機制御不能

第3次接続準備の直前、絶対境界線を突破した直後に神経パルスが逆流。同時に第3ステージでの異常や、神経素子の拒絶などが発生する。この状況に赤木博士はコンタクトの停止を指示するが、零号機は信号を拒否、制御不可能な状態に陥った。



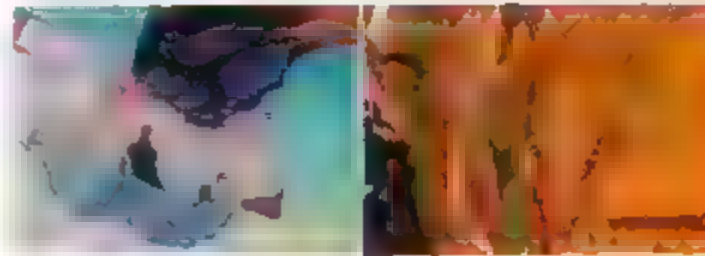
3 碓司令、実験中止を指示

零号機は、腕部を固定したロックボルトを引きちぎると、独自に行動を開始。これに対し、碓司令は実験の中止を命令、赤木博士はアンビリカル・ケーブルを遠隔操作により強制的に切り離した。しかし、零号機には予備電源により35秒間の活動時間が残されていた。



4 零号機、暴走——施設の破壊を開始

自動制動システムが作動しなかったため、零号機はそのまま行動を継続。コントロールルームへの攻撃を開始した。コントロールルームは、こうした事態にも対応できるよう設計されていたが、数度にわたる打撃により外壁やウィンドウが破壊されるなどの被害を受けた。



5 エントリープラグ強制排出

自動制動システムは命令の遂行を断念、パイロットの保護を最優先事項として、エントリープラグを強制射出した。これと同時に特殊ベークライトの注入が開始された。実験場の外壁を攻撃し続ける零号機は、予備電源を使い切り停止、事実上の凍結状態に置かれた。



実験後／機体・パイロットに対する影響



特殊ベークライトの除去作業が行なわれている第2実験場。こうした処置が取られたのは零号機だけである。

エヴァンゲリオン零号機

ベークライトによる凍結

活動停止直前に注入された特殊ベークライトにより、零号機は凍結状態に置かれた。この処置は、電力の供給を絶つこと以外にエヴァンゲリオンの行動を停止させる数少ない手段のひとつである。

綾波 レイ

全治20日の重傷

専属操縦者である綾波レイは、エントリープラグ射出時の衝撃により重傷を負った。さらに神経パルス逆流時などのショックで精神的にもダメージを受けていたと推測される。エヴァンゲリオンの操縦は肉体的、精神的にも危険を伴うのである。



第3使徒サキエル機破壊時は、重傷をおいて初号機に搭乗し、出撃しようとした。

NERV

組織の誕生とその概要

時に西暦2010年、セカンドインパクトの傷跡から立ち直りつつある日本で、国連主導の下に、ある組織の設立が行なわれた。国連傘下の研究機関であり、多種多様な研究(その内容についてはほとんど公開されていない)を行なったことで物議を呼んだゲヒルンを前身とする特務機関——NERV(ネルフ)の誕生である。結成以来、国連直属の超法規的組織という立場に守られたNERVは日本国政府からの再三に渡る情報開示要求をはねのけ、秘密主義を貫いた(広報部を通して開示されたわずかな情報からは、NERVに都合の悪い要素は入念に削除され、組織の実態を憶測することすら難しかったと言われる)。そのためNERVの設立目的は謎のままであり、日本国政府としては国連とNERVの要求を、不信感を募らせながらも唯々諾々と受け入れるしかなかったのである。ただNERVが居を構える第3新東京市に大規模兵装が設置されたこと、時折聞かれる「使徒」と呼ばれる謎の存在のことから、NERVが何らかの敵との交戦を目的として結成されたのではないかと予測されていた。そして、その予測は最悪の形で実現することになる。2015年、太平洋上に出現し、相模湾から御殿場に上陸したヒト型物体——使徒が、図らずもNERVの結成目的を公にすることとなった。つまりNERVは使徒を殲滅するために組織されたものであり、大規模兵装は、使徒に対する防衛手段に他ならなかったのである。

だがNERVに与えられた任務はそれだけではなかった。確かに「使徒殲滅」はNERVの重大な任務である。現用兵器の通用しない使徒に対抗できるのはNERVだけであり(使徒への対抗手段であるエヴァンゲリオンを保有しているのはNERVのみ)、使徒を殲滅しない限り、人類に未来はないのは明白なだけだ。しかしNERVに与えられたもうひとつの任務は、使徒殲滅と対をなしながら、それ以上に人類の未来を左右しかねないものであった。「人類補完計画」——この謎の計画こそがNERV結成の真の目的であり、計画の成就を託されてNERVは誕生したのである。一説によれば人類補完計画はNERV司令官である碓ゲンドウの発案によるものとされる。ゲンドウの計画がどのようなものか、それはNERVが超法規組織という立場を取り続ける限り、明らかになることはないだろう。使徒の侵攻と人類補完計画という異なるファクターを結びつけるNERVだが、組織の目的は未だ判然としておらず、それがまた、さまざまな憶測を呼ぶことになるのである。

- 碓ゲンドウ
- 第3新東京市
- ジオフロント
- 人類補完計画

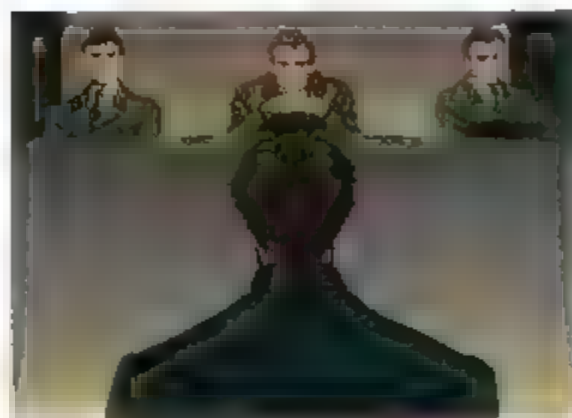


NERV司令官を務める男性。さらにエヴァンゲリオン初号機の専属パイロットである碓シンジの父でもある。



従来の国連組織とは一線を画する NERVの特殊な組織構成

NERVは国連直轄の組織であるが、その組織内容や構成は従来の国連組織とは大きく異なっている。それは、この組織が使徒との戦闘を一手に担っているためであり、軍事組織的な組織形態をしているのも、そのことが影響していると思われる。司令官を頂点としたトップダウン構造を採っているのは情報統制と一元化のため、所属要員が軍と同様の階級で区分されていることも組織内の規律を保つために必要な措置といえよう。さらにNERVには戦術作戦部や技術開発部といった特殊な部署が多く存在しているが、これなども組織の特異性を示すものである。



2015年では国連の発言力が大幅に強化されているのか、超法規的組織であるNERVは、あくまで独自規定に従って行動している。



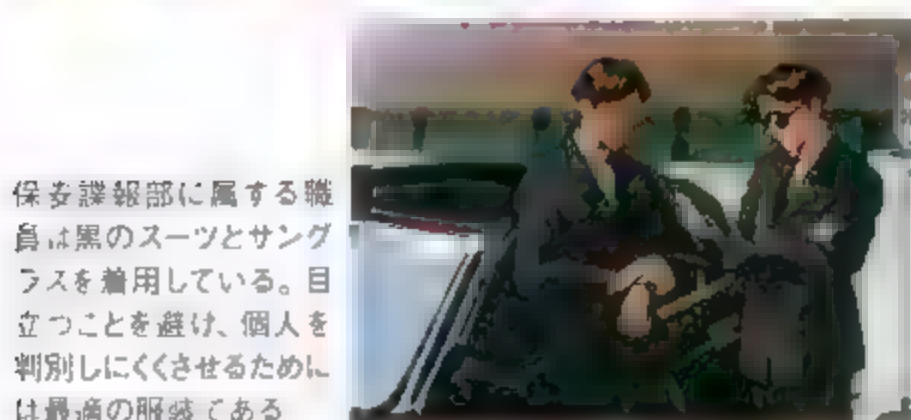
すべての情報を把握しているのは司令官であるゲンドウのみ。そのため副官の冬月や司令部付オペレーターも、知らないことは多いようだ。

NERV職員に許された装備 制服と携帯火器の数々

NERV職員には制服の着用が求められている。一般職員はクリームホワイトを基調とした制服であり、装飾よりも機能性を重視したものである。ただし各課を代表する者にはデザインの異なる制服が与えられ、外見から所属や階級が明らかになるようになっている。ただし技術開発部に属する赤木リツコのように白衣姿でいる者も中にはおり、徹底した着用は求められていないようだ。またNERV職員には火器の携帯が認められており、実弾を用いた射撃訓練も定期的に行なわれているようである。



この画像からでもNERVの制服の多彩さが見て取れる。ちなみに、一般職員用制服は男女によって微妙にデザインが変更されているようだ。

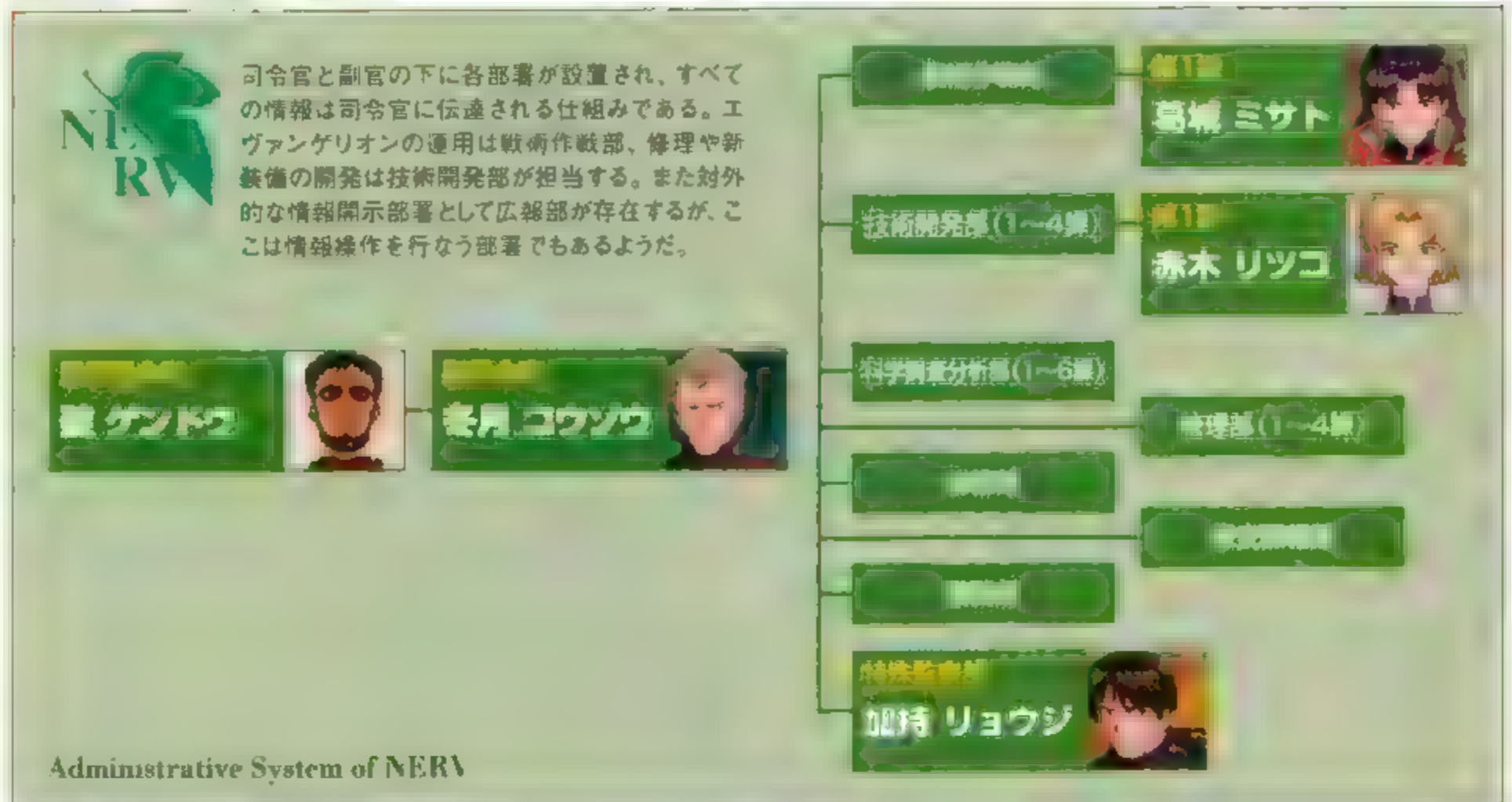


保安課に属する職員は黒のスーツとサングラスを着用している。目立つことを避け、個人を判別しにくくさせるためには最適な服装である。

特務機関NERVの 組織概要

NERVの組織構造は以下に示したような形態を採っている。とはいえ、これはNERV側から開示されたものであり、すべてが正確な情報であるとは限らない。

●NERV／組織構成

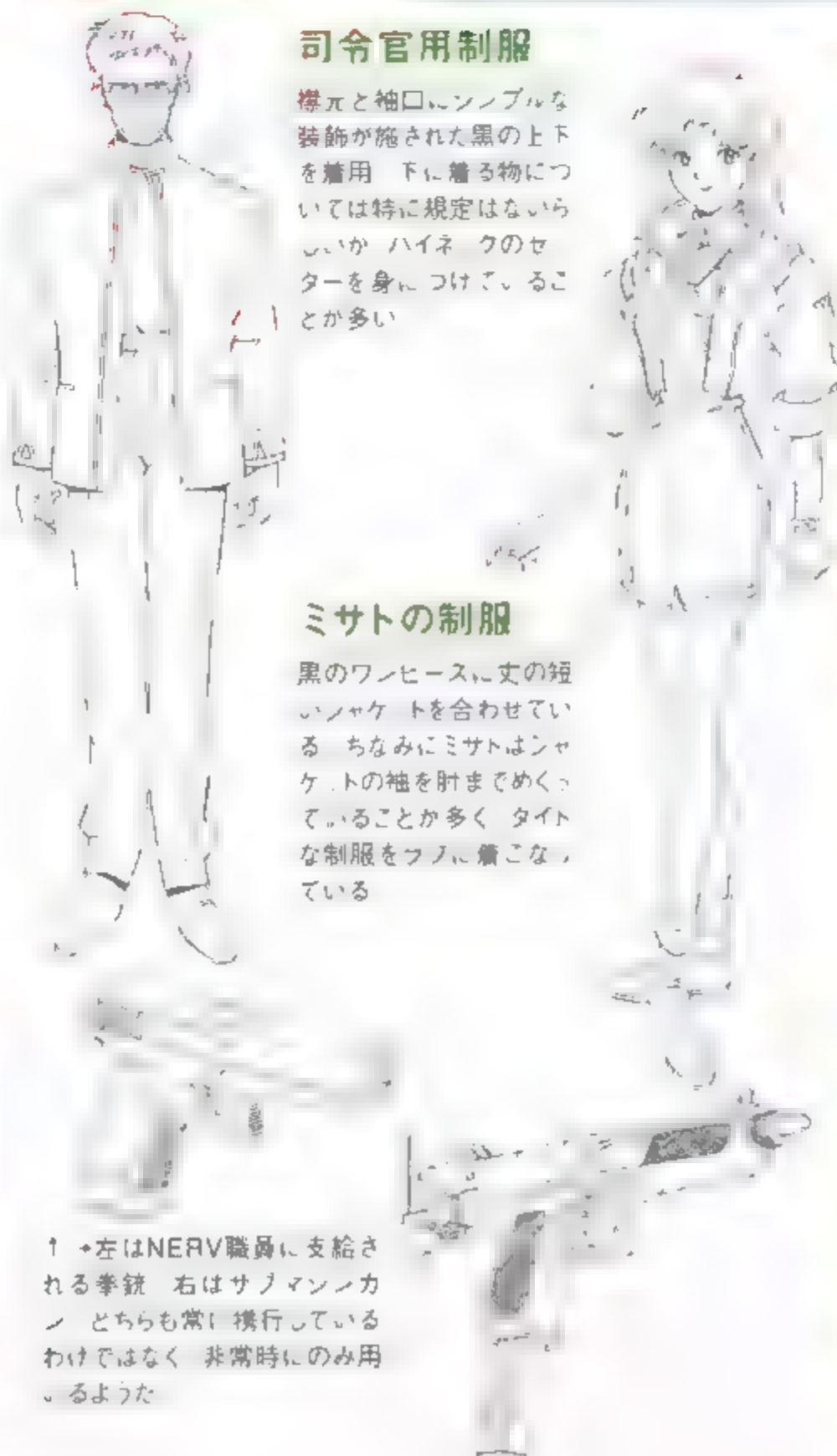


●対外組織との関係



NERV職員の 装備品例

制服と小火器の携帯という点からも、NERVの軍事組織的な傾向が見え隠れするが、超法規的な特務機関という立場を鑑みれば当然の装備なのかもしれない。



特記事項

関連する組織・施設

NERV本部は日本に位置しているが、世界の五大国(米、英、仏、独、露)にも支部が設けられている。各支部にはMAGIタイプの第7世代コンピュータが置かれ、施設管理や実験データの収集、解析に用いられている。さらにNERVにはさまざまな関連機関があるとされ、NERV直轄による管理の下で稼働している。しかし、その全容も活動内容も明らかにされていない。

●NERV支部

アメリカのネバダに設置する第1支部をはじめ、世界各地に支部や実験場が存在する(ただし第2支部は、第1機関の暴走により消失している)。

●マルドゥック機関

エヴァのパイロットを運出するための人類補完委員会直属の機関。シャボンパイオをはじめ、108の関連企業を持つが、そのほとんどがダミーである。

アンビリカル・ケーブル

UNBILICAL CABLE

人型の巨大兵器であるエヴァンゲリオンを駆動させるために問題だったのが、巨大なEVAを動かすだけの電力をいかに供給するかであった。これほど巨大な兵器を動かす電力を長時間供給するには内部電源では限界があったため、必然的にEVAの運用には外部電源を使用することとなった。結果、アンビリカル・ケーブルと呼ばれる巨大な電源ケーブルが用いられるに至ったのだ。

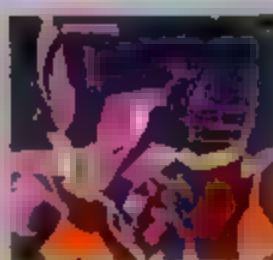
アンビリカル・ケーブルは、機体の背後にある三極式コンセントに接続することで、安定した電力供給と長時間に亘る運用を可能とした。ケーブルの構造は使徒との戦闘に即した長さ、そして耐久性を維持したのようになっており、機体の運動性を妨げることがないように配慮されている。また、使徒の迎撃を行なう要塞都市であった第3新東京市のビル群には、予備となるアンビリカル・ケーブルが多数内蔵されていた。これにより、予備ケーブルとの接続と取り外しを繰り返すことで広範囲に及ぶ戦闘にも対応できたのである。

さらにアンビリカル・ケーブルには、機体情報をジオフロントのNERV本部に伝える機能が施されていたとされている。パイロットとのシンクロ率に応じてパフォーマンスがめまぐるしく変化するEVAだけに、リアルタイムで情報を把握することが重要であったからだ。また、この機能を活かす形で、機体が暴走した際に本部側からケーブルを切り離し、強制的に電源を落とす爆砕ボルトや、爆砕ボルト使用時の衝撃を緩和する噴射ノズルが装備され、パイロットの安全面にも配慮された仕様となっていた。

事実、試験段階であった零号機が暴走した際（零号機起動実験）は、アンビリカル・ケーブルを強制的に機体から切り離し、被害を最小限に食い止めたケースが確認されている。このことから、アンビリカル・ケーブルを使用した外部からの動力供給方式は、機体の予測不可能な行動を防ぐ一種のセキュリティとして用いられていたとの説もある。いずれにせよ、アンビリカル——「へその緒」という名の通り、EVAの命綱とも言える重要なパーツであったことは間違いない。

RELATED MATTERS

- EVA初号機
- EVA式号機
- EVA零号機
- EVA電源装着トレーラー



碓氷トンネルが格乗した機体でのため、S機関を確保したためアンビリカル・ケーブルによる電力供給は不要となる。



機体に動力を供給する
大型ケーブル

■ケーブルの構造と使用

緊急用の内部電源ではわずかな活動時間しか得られないEVAにとって、アンビリカル・ケーブルから供給される電力が頼りである。ケーブルはチューブ状のフレキシブルな構造を持つだけでなく、特殊な加工が施されているためか、多少の衝撃にはびくともしない耐久性も有している。これにより、

安定した機体への電力供給を実現したのである。また、機体から外した際の衝撃を緩和する手段として、ソケット部にスラスタが取り付けられているなど、再利用も考慮した仕様となっていた。

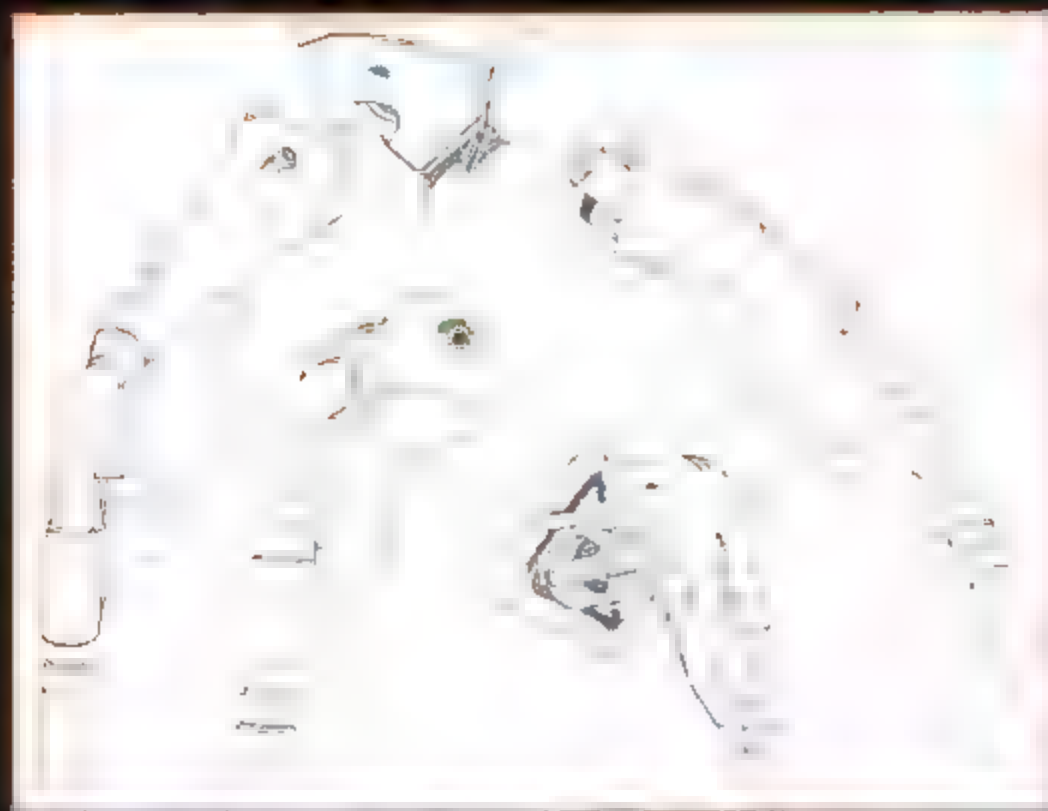


機体からアンビリカル・ケーブルが接続されている。



本部の指示によって、強制的にアンビリカル・ケーブルを外すことも可能であった。

■ソケット/形状



ソケット部には三様式のコンセントを用いている。また、機体自らのマニピュレーターでケーブルを外せるように、取っ手が付いているのがわかる。ノズル状のものは切り離し時の衝撃緩和用のスラスタ。

■プラグ/形状

ゆるやかな曲線が描かれているエヴァンゲリオン初号機の背部。胴体の中央にあるのがケーブルとのジョイント部であり、左右どちらか一方のマニピュレーターを使えば接続できるレイアウトとなっていた。



■ケーブル接続概念図

背部のジョイント部にアンビリカル・ケーブルを接続した状態。行動範囲は狭まるが、長時間の運用が可能である。ケーブルが外れると行動範囲は大幅に広がるが、機体の内蔵電源では短時間しか駆動できないため、リスクな状況となる。



戦闘場所によって異なる
ケーブルの運用法

■2種類のケーブル運用法

アンビリカル・ケーブルを使用した電力の供給方法は2種類存在する。ひとつは第3新東京市にある電力供給ビル群に内蔵されたケーブルを利用する場合、もうひとつはEVA電源装着トレーラーと電源車を用いる場合である。通常は、使徒迎撃用の第3新東京市で戦闘を行なうため、ビル群からの電力供給が主であった。だが

第3新東京市以外での運用も想定し、電源装着用のトレーラーや電源車が開発されたのである。



第3新東京市を離れて行なわれた第7使徒イスラフェルとの戦いでも、初号機と式号機はEVA電源装着トレーラーに搭載されたアンビリカル・ケーブルから電力供給を受けた。

■電力供給ビルによる送電

第3新東京市のビル内にあるアンビリカル・ケーブルを用いて機体に電力を送る。使徒からの攻撃でケーブルが切断された場合にも、他のビル内にある別のケーブルを接続すれば、継続して機体は運用できた。またビル群のほとんどにケーブルが内蔵されており、複数のEVAを同時運用することも可能だったのである。ちなみに、アンビリカル・ケーブルをビル群に偽装していたのは、第3新東京市が要塞都市であることを民間人に認識させないためであった。だが使徒襲来以降、ケーブルの存在はテレビなどを通じて幅広く認知されたと思われる。



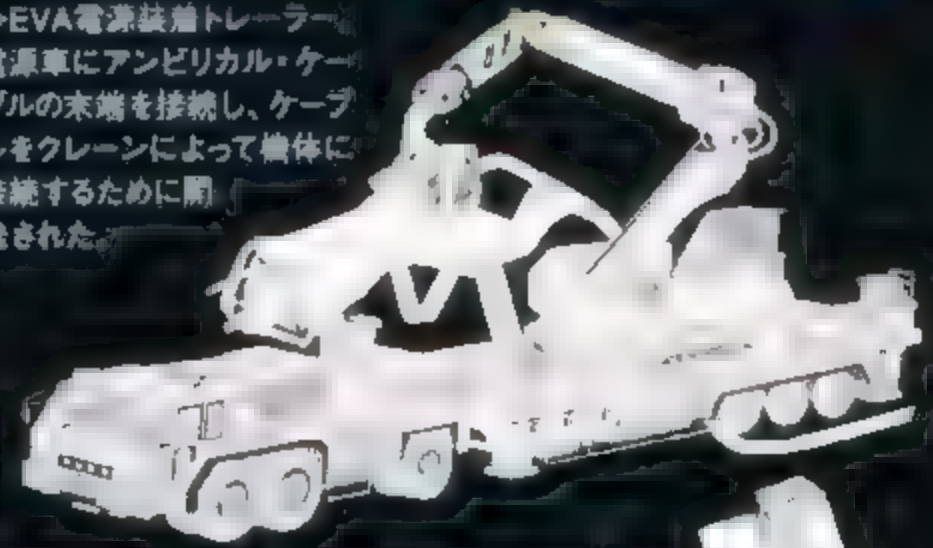
第3新東京市内のビルの一階部分に格納されているコンセント。アンビリカル・ケーブルと同様にEVAに電力を供給するためのシステムである。

■専用車両を用いた送電

EVA電源装着トレーラーに搭載されたアンビリカル・ケーブルを機体に接続し、トレーラーとペアで行動する電源車から電力を供給する。その接続方法や運用法については、ビル群に内蔵されたケーブルを使う場合と何ら変わりはない。しかし、電源車に搭載できる電力はビル群にあるケーブルよりも少なく、さらに電源車自体を大量に配置するのにも限界があるため、EVAに搭載された能力を最大限に発揮できるとは言いがたい。事実、第3新東京市の外部で戦闘を行なった際には、短時間で戦闘を終わらせることが必須条件となっていた。



→EVA電源装着トレーラー電源車にアンビリカル・ケーブルの末端を接続し、ケーブルをクレーンによって機体に接続するために開発された。



特記事項

緊急時における電力確保手段

何らかの事情でアンビリカル・ケーブルを使用できない場合、EVAは機体内に備えた内部電源によって駆動することができた。だがその駆動時間は1~5分程度と短かいため、あくまで緊急時に特化した電源だと言える。そのため、内部電源を補うべく外付け用の電力供給パーツとして非常用電池が開発されている。非常用電池は内部電源よりも大きな電力を有していたため、ある程度の作戦行動を可能とした。だがその大きさもあってか、運用には苦慮したようだ。



シオフロントが停電した際、3機のEVAは非常用電池を設置して出撃した。だが第8使徒が放出した溶解液に溶かされた。

●内部電源切り替え

フル充電で1分、変換器を使用して信号電力の増加(ケインと呼ばれる)を促せば、最大で5分間アンビリカル・ケーブルを使用せずとも機体を動かすことができた。なお、電源が設置されている箇所は不明である。



内部電源のみで移動するEVA式号機。機体の運動性自体は変化はない。

●非常用電池

大型の電池パックで、肩のジョイント部に搭載される。第8使徒迎撃時は、零号機、初号機、式号機がそれぞれ装着して出撃した。
→長方形の電池パックのジョイント部で指定電力を供給する

AVISビール

第28放置区域（旧東京都心）で行われたJ.A完成披露記念会で、出席者に振る舞われたビールの銘柄



表のラベルにはブランドキャラクターらしきイラストが描かれている

アブソーバー

NERV本部に備えられた衝撃吸収システム。サードインパクトによる大爆発でジオフロント外郭部が露呈、その際、物理的衝撃波を耐えしのぐため、冬月の指示により最大出力で用いられた

アポトーシス

遺伝子によって制御された細胞の自然死。生体内において不要、害になった細胞が受動的に死んで機能の恒常性を保つメカニズムのこと。また、生命体としてより良き形状に至るため不要な細胞を排除する形状変態の働きも有す。植物の落ち葉や、オタマジャクシが変態してカエルになるとき尻尾が消える現象などがアポトーシスにあたる。そのほか細胞死の形態には、不慮の外的要因によって受動的に発生する壊死現象ネクローシスと、細胞の寿命死であるアポビオーシスが存在。第拾参話において、爆発的な進化を見せる第11使徒イロウルに対し、「進化の終着点は自滅という死そのもの」だとする見知から自滅促進プログラムが送り込まれ、強制的に進化を促されたイロウルはアポトーシスした。なお、同話冒頭のアナウンスに「EVA3体のアポトーシス作業」というセリフが含まれており、第七話においても「使徒と称される物体及び人類補完計画（仮称）に関する第1次中間報告書」に「発生（アポトーシス apoptosis）」「生体防御（アポビオーシス apobiosis）」との記述が見受けられる。



第拾参話の式号機修復時にはネクローシス、マイトーシス作業という名称も使われている

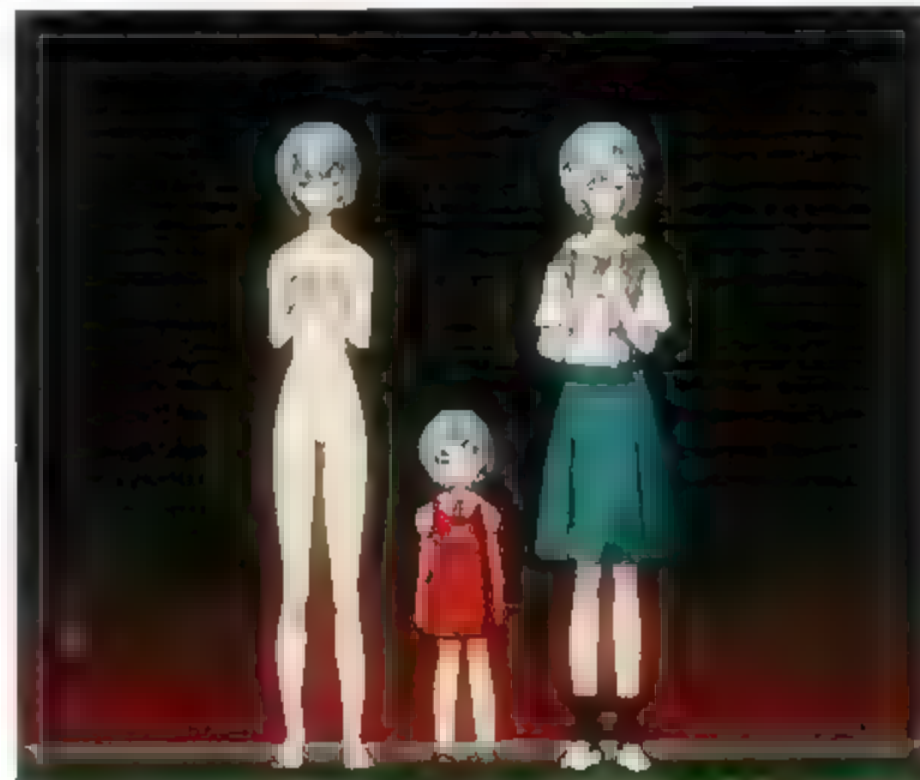
雨、逃げ出した後

第四話のサブタイトル。英文タイトルは「Hedgehog's Dilemma」。第参話でリツコが「ヤマアラシのジレンマ」について語り、第四話においてミサトがシンジと自分の関係を実感する。ヤマアラシのジレンマとは、心理的な距離が近いほどお互いを深く傷つけ合ってしまうことを指す。そのため、お互いが傷つかない距離を維持しようとする対人関係の意味でも使われる心理学的な比喩である。ドイツの哲学者ショーペンハウアーの著書「余禄と補遺（Parerga und Paralipomena）」にある寓話「ヤマアラシのジレンマ」とは、ある寒い日、ヤマアラシ同士が体を寄せ合って温めようとするが、近寄るとお互いの棘で傷つけ合ってしまう。離れると寒く、近寄ると棘が刺さる。それを繰り返しながら、

やがて寒くも痛くもないちょうど良い距離を見出すという話。それを精神分析の先駆者フロイトが人間関係のアンビバレンスの説明で引用し、アメリカの精神分析医ベラックの著書「ヤマアラシのジレンマ〜人間の過疎をどう生きるか〜（The Porcupine Dilemma, Reflections on the Human Condition）」により心理学用語として定着した。なお、ヤマアラシ（Porcupine）はネズミ目ヤマアラシ科で棘は外向き、ハリネズミ（Hedgehog）はモグラ目ハリネズミ科で棘は内向きに逆立つ。ヤマアラシは外的に対して積極的に威嚇するために使い、ハリネズミは身を丸めて守るために使う

綾波レイ

零号機の専属操縦者。EVA操縦者の適正を持つ最初の被験者であり、ファーストチルドレンと呼ばれる。レイに関するあらゆるデータは抹消されており、経歴は一切不明。表情に乏しく無口な少女だが、ゲンドウにまつわる事柄に関しては感情を見せる。EVAは他人との絆だと話す彼女は、シンジたちとの交流によって仄かな人間味を持つようになっていく。EVAの開発当初から訓練を受けていたが、零号機とのシンクロに7ヶ月を有し、初の起動実験では暴走事故も起こしている。幼き日のレイは赤木ナオコ博士により殺害されたという説もあるが、その記録はなく、彼女は存命が確認されている。また、第16使徒アルミサエルとの戦いで自爆、死亡したものとされたが、何事もなかったかのように無事な姿を現す。そのときのレイが自分を「3人目」だと称したように、彼女は替わりとなる肉体パーツを持つ「造られた存在」だったと推測される。なお、使徒であった者カールはレイを自分と同じだと称した。このことから、彼女の肉体は造られたものと推測され、魂はヒトよりも使徒という存在に近いものと思われるが、真相は不明である



3回肉体が移り変わっているらしきレイ。しかし、彼女に宿る魂だけは同一のものだといっ

アラエル

光の翼を広げたような姿をした第15使徒。第拾参話において衛星軌道に出現し、A.T.フィールドに似た可視波長のエネルギー波を式号機に照射した。それが精神浸食として惣流・アスカ・ラングレーを奇み、式号機は活動停止に追い込まれる。その後、零号機が投擲したロンギヌスの槍によって殲滅された。なお、旧約聖書の偽典のひとつである「エノクの書」では「鳥」を司る天使といわれている。



EVAの通常兵器では、衛星軌道に降取るアラエルのA.T.フィールドを貫くことはできなかった。

アルバイト

NERV特殊監察部という肩書きでありながら、日本政府諜報部に属していた加持リョウジのこと。第拾九話ではスパイ活動が公になり、戦闘配置からは外されていた



第拾九話の第3新東京市停電時には、NERV本部で何かを探っていたらしき加持の姿が見られる

アルビヌ・ルノー-A310（改）

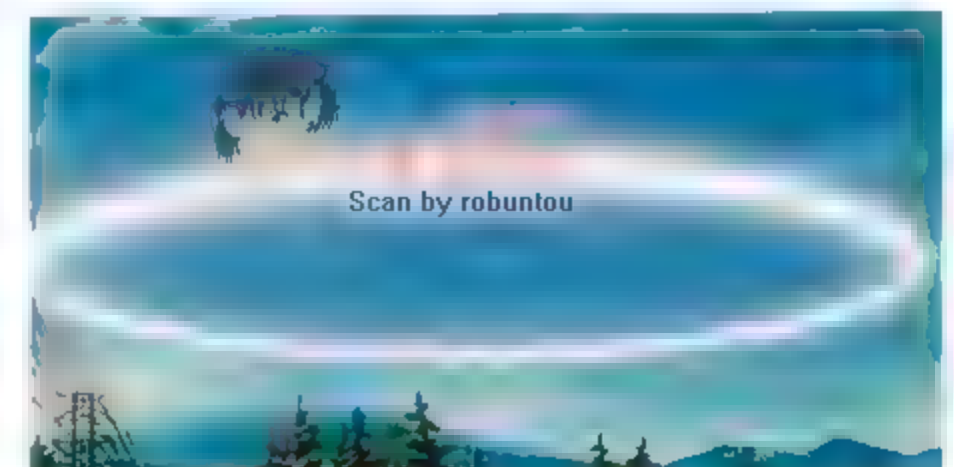
葛城ミサトの愛車。アルビヌ・ルノー-A310は、A110に代わる新世代アルビヌとして1971年に登場した。鋼管バックホーンフレーム、リアエンジン方式、FRPボディというA110の流れを受け継ぎながら、ボルシェ911を意識したキャビンは2+2シートに変更されている。6個の角形ヘッドランプが特徴でエンジンは1600ccの直列4気筒OHVを搭載するが、のちにP.R.V.2700ccV型6気筒SOHCに一本化された。ミサトのA310は、右ハンドル、2シート仕様改造車であり、ガソリン車から電気自動車に変更されている。第参話において、国連軍の使った地雷の余波に巻き込まれて大破するも、第拾参話でレストアから復帰。しかし、戦略自衛隊の侵襲によって再び壊れてしまう。なお、第四話の最後では、左ハンドルのガソリン車仕様も所有していることがわかる



33回のローンを残る新車だったが、地雷の余波で見るとなくなってしまう

アルミサエル

二重螺旋構造を持つ第16使徒。紐状に展開して零号機のA.T.フィールドを浸食し、人との一次的接触を試みる。その際、内的世界における綾波レイとの対話から、破シンシと一体化を望む彼女の意識を汲み取った。そのため同作戦に参加していた初号機にも一次的接触を図るが、自分の願望がシンジへの浸食を促していると察したレイは、零号機のA.T.フィールドを反転。それによって融合が進んだ零号機内に抑え込まれ、臨界に達したコアの爆発に巻き込まれて殲滅された。なお、旧約聖書の偽典のひとつである「エノクの書」では、「子宮」を司る天使といわれている。



パターンを青からオレンジへと周期的に変化させ、リング状のまま定点回転をしつつ大森谷の上空に停着していたアルミサエル

安全限界深度

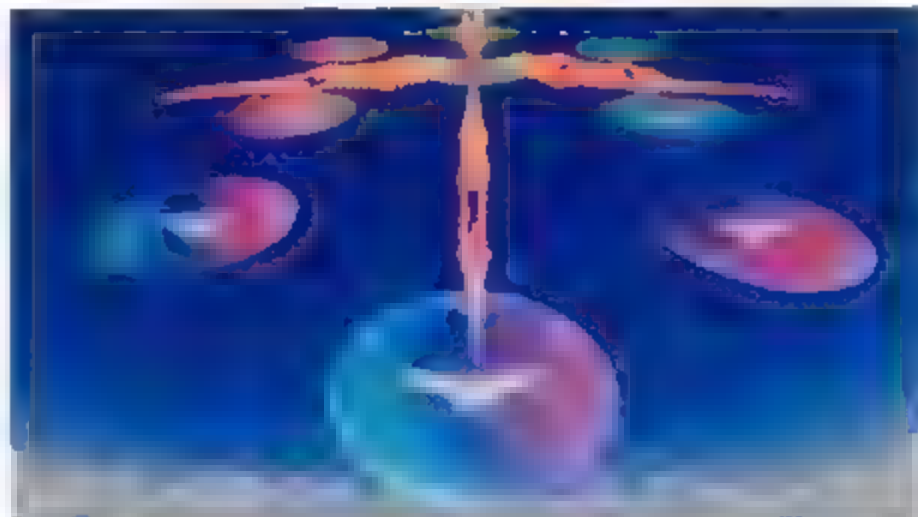
試号機D型装備における耐久可能な火口潜航深度。第拾話において、高温高圧の浅間山火口内に潜航した際、深度1,020mで安全深度をオーバー。その後、深度1,400mで第2循環パイプに亀裂が発生し、深度1,480mで限界深度をオーバーした。

あんた、バカあ!?

惣流・アスカ・ラングレーの口癖で、彼女にとっては枕詞のようなもの。シンジの無知さ、ニブさ加減に対し、意味や状況をレクチャーする際のワンクッションとして主に使用される。ときにはただ優しいだけの「バカ」が使われる場合も

アンチA.T.フィールド

EVAシリーズがS機関を解放したことで発生。デストロイの形而化により自我境界が弱体化、その結果、人の姿を形作るA.T.フィールドを消失させる効果を持つと推測される



アンチA.T.フィールド発生時、次元測定値は反転し、マイナスを示す。その現象はセカンドインパクト発生時と酷似していた。

アンビリカル・ケーブル

EVAに電力を供給するための専用ケーブル。三極の電源コンセントで、機体背部にマウントする仕組みとなっているEVA本体による手動脱着のほか、爆砕ボルトによる強制除去が可能。ソケット部分には、落下時の損傷を抑えるためのスラスタが組み込まれている。第3新東京市の各所にある電源ビルには予備ケーブルが装備されているほか電源車などでケーブルを運用することが可能となっており、EVAの広域活動を可能としている。なお、飽和潜水時に船と潜水球をつなぐ管や、宇宙服に空気を供給するチューブなど、生命維持に直結するケーブル類を「アンビリカル・ホース」と称す場合が多い。また、「umbilical cord」は「へその緒」という意味でもある



強制的に脱着する際にスラスタで逆制動をかけるが、さすがに落下時の衝撃は殺しきれず、周囲に被害がおよぶことも

アンビリカル・ブリッジ

格納時のEVAを固定している設備。左右にある第1、第2拘束具と1~15番までの安全装置で厳重に固定されている。また、第3新東京市の各所へとEVAを移送する輸送台としての機能も持つ。なお、スペースシャトルの発射においてロケットやペイロードに電力を供給するケーブル類があり、それを支える塔を通称「アンビリカル・タワー」という



リニアエレベーターを使用して第3新東京市内に移送されたリニアエレベーターが故障した際、最終安全装置が解除される

CATEGORY

い

E計画

人類補完計画、アダム計画と並びNERVによって進められている3大計画のひとつで、アダム再生計画ともいわれているらしい。その中でも最初に着手されたもので、アダムと呼ばれる存在のコピーを生み出す計画だと推測される。このプロジェクトによってエヴァンゲリオンが建造された

E事件

第3使徒サキエルと初号機との交戦のこと。この戦闘での負傷者を病院側では「E事件のクランケ」と称しているが、世間一般での呼び名は不明。鈴原トウジの妹はこの事件で大怪我を負い、入院生活を余儀なくされた

イージス艦

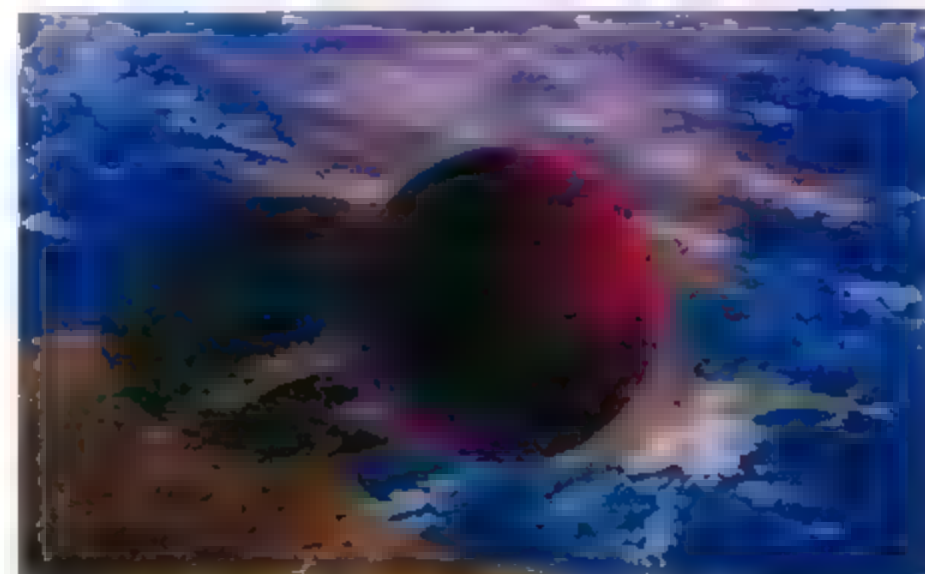
イージスシステムを搭載した艦艇の総称。第八話で、海上での足場代わりに試号機が踏み台とした。なお、イージスシステムとは「Aegis combat system」の略称。攻撃システムと武器システムの集合体で、電子制御による多目標への同時処理能力と短時間の対応能力を持つ。特に対空脅威に対して高い迎撃能力を発揮するシステム。



高度なシステムを持つため高価なイージス艦。試号機はそんな貴重な艦を海上での足場として使った

E層

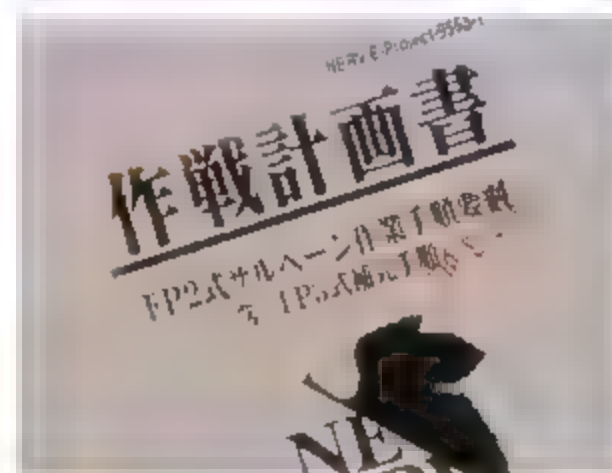
大気上層の電波を反射する電離層のひとつ。サードインパクト発生時、黒き月の姿に戻ったジオフロントが上昇を開始。その際に通過した。なお、電離層とは分子や電子が宇宙線によって電離した層であり、電子密度の違いによってD層、E層、F1層、F2層の4つに分けられる



E層を通過して上昇を続けたジオフロント。黒き月は高度22,000kmのF層、まで達する

EP2式サルベージ作業手順要綱
(含、LP3式補完手順)

EVA初号機に取り込まれてしまった碓シンジをサルベージするための計画書。10年前に碓ユイが接触実験により消失したときに立案されたサルベージ計画を土台に、赤木リツコが1ヶ月かけて作成したもの。



サルベージとは、LCに引き込んだ人間の肉体を再構築し、精神を定着させる作業である

委員長

同木ヒカリの通称。学級委員長のためクラスではこう呼ばれている。真面目で責任感の強い彼女は、男子から煙たがられている様子

碓ゲンドウ

特務機関NERVの最高司令官。サードリトル碓シンジの父親だが、父子との繋がり薄い。その一方で綾波レイには執着を示し、彼女に対しては笑顔を見せることも。人類補完計画の総責任者だが、ゼーレの思い描く計画とは別の思惑を持つ。目的のためには手段を選ばない冷徹な人物で、赤木ナオコ、リツコ母子と肉関係を持ち、彼女達の才能を「武器」として己の目的実現に利用する。実のところ人間関係が壊滅的で、それゆえに人を傷つけてしまう器用な男であった。碓ユイは、資格はないと自分を評し、シンジを遠ざけたのは息子を傷つけるのが怖かったからだと言った。再会したユイに吐露する。それは、自分がシンジに傷つけられることを恐れていた心弱さにも他ならない。旧姓は六分儀であり、碓ユイとの結婚で碓姓となった。ユイの才能と、彼女の背後にある組織ゼーレとの繋がりを得たいがための結婚と目されているが、ユイとの再会を果たすためにゼーレすら裏切っており、ゲンドウにとって彼女はかけがえのない人物であったことがわかる。なお、ユイと出会う以前、ゲンドウ

が何故ゼーレの力を欲したのかは定かではない。のちにゼーレの息がかかったゲヒルンという組織に所属、セカンドインパクト発生後は人工進化研究所の所長を務め、「E計画」「人類補完計画」「アダム計画」に着手、その計画の遂行組織NERVの最高司令官となる。そこで使徒の殲滅を進め、来るべき人類補完計画の実現を待つ。そして、ゼーレの手による戦略自衛隊襲撃のおり、綾波レイ＝リリスとアダムの融合を用いた人類補完計画を実行しようとするが、レイは息子シンジの呼びかけに答え、ゲンドウの目指す補完計画はもろくも潰れてしまう。



他人に本心を見せず、常に手を顔の前に組んだ姿勢で黙々と采配を振るNERVの最高権力者。

碇シンジ

EVA初号機の専属操縦者であるサードチルドレン。積極性に乏しく人付き合いが苦手、その反面、自分が他人にどう見られているかを人一倍気にする繊細な心を持つ。父ゲンドウとは10年以上別れて暮らしており、シンジが「先生」と呼ぶ父の知人のもとに預けられて成長した。そのため父に捨てられたと感じており、自分自身の存在意義に懐疑的である。自分を捨てた父を憎む一方、認めてもらいたいという複雑な心境を持つシンジは、ゲンドウによって第3新東京市に呼ばれ、EVAのパイロットとして使徒と戦うことになる。そこで自分自身の価値、存在理由を見出そうと模索しながら成長していく。少しずつ前向きに変わりつつあった彼だが、自分を理解し、好意を抱いてくれた渚カヲルを使徒として自ら手にかけてことをきっかけに、再び心を閉ざしてしまう。そうした中、ゼーレによる人類補完計画が発動。初号機と共にサードインパクト発生の依代となり、人類の未来はシンジに委ねられる。



傷つきやすい繊細な感性の持ち主であるシンジ。だが他人の心の機微に関しては疎いようだ。

碇ユイ

シンジの母であり、ゲンドウの妻。巨大組織ゼーレをバックに持つ、才能ある遺伝子工学者であったらしい。六分儀ゲンドウと知り合い交際、のちに結婚してシンジを生む。京都大学に在籍中、生物工学の論文が接点で冬月コウゾウと知り合い、ゲンドウへの橋渡しをした。ゲヒルンに所属し、EVAへの接触実験によって2004年に消失する。その際にサ

ルページを試みられるも失敗。彼女は自ら望んでEVAの内に留まったともいわれるが……。余談だが、ユイは人間の生きた証を、永遠に生き続けるEVAに求めていたという。



セカンドインパクト後の世界でも前向きな考えを示す、ポジティブで母性本能の強い女性だったと思われる。

遺書

死を覚悟した者が書き残す手紙。NERVに限らず軍隊などでは、死亡率の高い任務に赴く場合、遺書を書く規則になっていることがある。第拾弐話において、使徒を素手で受け止めるという無謀な作戦の前に、葛城ミサトがEVA操縦者に対して遺書を書くかどうか尋ねている。アスカは死ぬつもりがないため、レイは遺す相手がいないため、シンジはふたりが書かないからと思しき理由で遺書は書かれなかった。なお、第弐拾弐話において、加持リョウジがミサトに遺した電話のメッセージも遺書、遺言といえるだろう。

イスラフェル

2体に分離する能力を持つ第7使徒。紀伊半島沖に出現し、迎撃に出た弐号機のソニックグレイブを受けて両断されるが、そのまま甲、乙2体に分裂して初号機、弐号機を撃破する。その後、国連第2方面軍によるn2爆雷によって構成物質の28%を焼却され、自己修復のため6日間活動を停止。再進攻ののち、初号機と弐号機からコアへの二点同時過重攻撃を受けて殲滅された。なお、イスラム教の聖典「コーラン」では最後の審判において終末のラッパを吹く天使であり、「音楽」を司るといわれている。



2体に分離するだけでなく、再統合も可能であるイスラフェル。

位相空間

物理学的な位相空間 (Phase space) とは力学的な状態を表すための空間で、物体の位置と運動量を座標とした多次元的な空間のこと。第弐話において、暴走した初号機と第3使徒サキエルとの戦闘に際し「A.T.フィールドの位相空間を中和しています」との伊吹マヤのセリフで使われている。このことから、A.T.フィールドは位相空間を持ち得るものと推測される。

1億8千万kW

第5使徒ラミエルのA.T.フィールドを貫くために必要とされるエネルギー量。この莫大なエネルギーを集束して撃ち出すため、戦略自衛隊つば技術研究本部の自走陽電子砲を改良したボジトロンスナイパーライフルが用いられた。



1億8千万kWものエネルギーを生み出すため、日本列島の全土から電力を集束化した。

一次的接触

物理的接触のこと。第16使徒アルミサエルは零号機を浸食して融合を図り、綾波レイとの一次的接触を持つ。その際、人の心を探るためか、彼女の内面世界において対話を試みている。



人との触れ合いに対して臆病な碇シンジに、渚カヲルは積極的に一次的接触を試みた。

1/1バルーン・ダミー

第5使徒ラミエルの攻撃能力を探る際に用いられた、初号機の等身大バルーン・ダミー。ハンドガン構えたときに反撃され、敵の攻撃意志を察して迎撃するというラミエルの性質が判明する。



精巧に作られており、ハンドガンを持つ右手が稼働するギミックを内蔵している。

14式大型移動指揮車

作戦を指揮するための特殊車両で、2014年に制式採用されたため14式と呼ばれている。国連軍でも使用している車両をNERV仕様になっているものと思われ、葛城ミサトがNERV本部以外で作戦の指揮を執る場合に使う。内部には多数のモニターとスーパーコンピュータを搭載し、オペレーター席のタッチパネルは本部の発令所と同様のものを使用。作戦部のほか技術部の人間も同席し、簡易司令所として機能する。

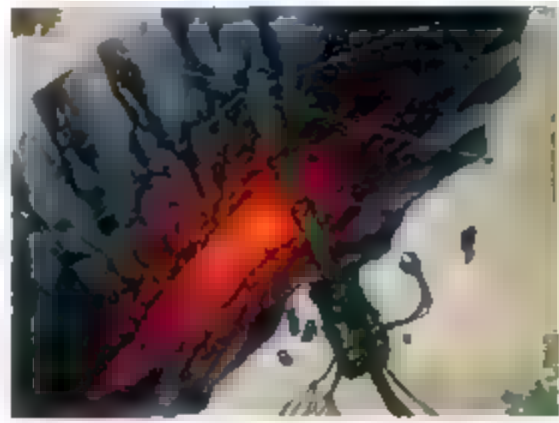


ヤシマ作戦、浅間山での使徒捕獲作戦、EVA3号機起動実験の際に使われている野戦用指揮車。

14式大型架橋自走車

超大型のクレーン車。第拾話において、弐号機を浅間山火

口に潜航させる際に用いられた。無限軌道によって自走可能であり、架橋部分は可動式のレールになっている。なお、2014年に制式採用されたため14式と呼ばれている。



架橋部分は超硬ワイヤーと金属製の杭で固定されており、EVAの質量すら支えることが可能。

命の選択を

第拾八話のサブタイトル。英文タイトルは「AMBIVALENCE」。アンビバレンス（両価値）とは、心理学的に、ひとつの個体内に相反するふたつの価値観が共存することを指し、一定の人物や状況に対して、相反する感情や考えを持つ状態、心の葛藤を意味する。

伊吹マヤ

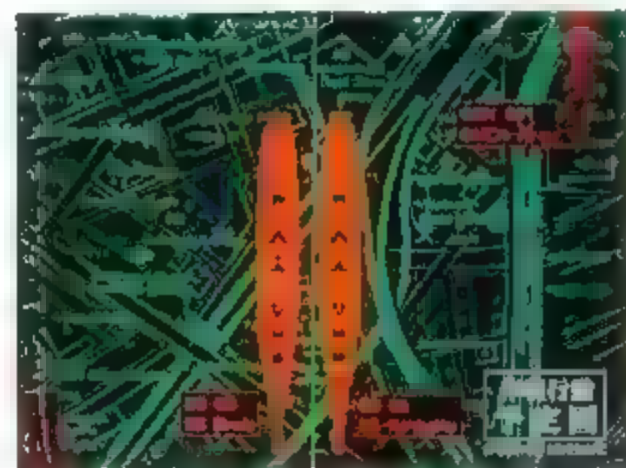
NERV本部技術開発部技術局第1課に所属し、階級は二尉。中央作戦室でEVA操縦者をモニターするオペレーターとして勤務し、EVAに関する開発や実験においては、直属の上司である赤木リツコの補佐としても行動している。リツコのことは「先輩」と呼んで慕い、恋に近い憧れの感情を抱いていた。真面目で潔癖性の気が多少あり、ダミープラグなどの非人道的なシステムには嫌色を示すが、仕事として割り切るロジカルさも垣間見える。しかし、戦略自衛隊の襲撃、アンチA.T.フィールド物質化の際にはパニック状態となり、メンタル面の脆さを露呈した。普段着はショートパンツにTシャツという飾らない出で立ちで、ネコ柄クッションを愛用する少女趣味な部分もある。



メインモニターに向かって一番右側が伊吹マヤの席で、ここからEVA操縦者への補助を行う。

イリノイ

アイオワ級5番艦で、全長は270.6m。旧伊東沖遭遇戦で、第6使徒ガギエルに対する零距離射撃作戦において自沈した戦艦の1隻。なお、アイオワ級は第2次世界大戦から湾岸戦争まで使われてきたアメリカ海軍最大の軍艦で、速力、攻撃力を共に併せ持つ巨艦である。そのため維持、運営費などが莫大となり、建造されたほとんどの艦が予備役に編入され、大きな戦争のたび現役に復帰していた。



もう1隻の戦艦ケンタッキーと共に自沈し、使徒に射撃後自爆する。

人間

厚木と同様に航空自衛隊の基地があり、第3使徒サキエルに対して航空戦力を展開する。厚木と共同戦線を張るもあえなく敗退した。

イロウル

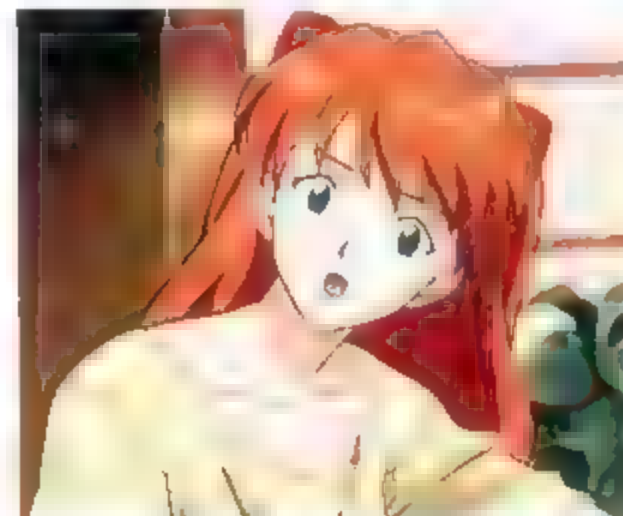
マイクロマシンサイズの第11使徒。短時間で知能回路を形成し、常に変化し続けて弱点を克服するという爆発的な進化速度を持つ。当初は第87タンバク壁で増殖を開始、模擬体の活水システムを優す。オゾンという弱点を持っていたが短時間で克服進化し、逆に取り入れて再増殖の種とした。その後は保安部のメインバンクにアクセス、MAGIにハッキングしてメルキオールをリプログラムし、自律自爆によるNERV本部の破壊を試みる。しかし、赤木リツコによる逆ハックで自滅促進プログラムを送り込まれ、「進化の終着点である死」によって自滅した。なお、旧約聖書の偽典のひとつであるエノクの書では、「恐怖」を司る天使といわれている。



使徒の集合体が電子回路を形成し、MAGIにハッキングを仕掛け、乗っ取ってしまう。

インターフェイス・ヘッドセット

EVAと操縦者との神経接続に必要なマン・マシン・インターフェイス。これにより、操縦者の思考を介してEVAを操縦することが可能となっている。ファーストチルドレンは白、セカンドチルドレンは赤、サードチルドレンは青みがかった白のヘッドセットを使用。



アスカだけは髪留めのようにして常時装着しているが、他のヘッドセットとの違いは不明。

インダクション・モード

第参話において、仮想空間でシンジが訓練を行っていた射撃モード。なお、軍事用語では、射撃の精密さを上げるため、コンピュータによる誘導を優先する操縦方式を指す。



より精密な射撃が求められる場合、狙撃用のバイザーに目標と誘導修正が表示される。

インダクション・レバー

主に火器などを扱うときに使用する操縦桿。火器使用時には通常の思考操作ではなく、インダクション・レバーを介して行う。



思考操作が可能なEVAだが、火器のトリガーはインダクション・レバーに付いている。

intのC

赤木ナオコが貼り付けたと思しき、カスパーの内部にあったメモ。その中に書かれたMAGIの裏コードのひとつ。「int」は「integer」の略。プログラミング言語における基本的なデータ型のひとつで、整数を表す。なお、扱える範囲は言語や処理方法で異なり、符号付きだとマイナスの値をとることができ、付かない場合は0か正の数しかとらない整数となる。「C」はC言語、または16進法の13、あるいはC言語における文字（キャラクター）を示すものと推測できるが、真相は不明。

CATEGORY う

ヴィルヘルムスハーフェン

19世紀から軍港として栄えているドイツの都市。現在は北大西洋条約機構の海軍基地がある。第七話の次回予告で、ここから式号機と共にアスカが出港したと語られている。

嘘と沈黙

第拾伍話のサブタイトル。英文タイトルは「Those women longed for the touch of others' lips, and thus invited their kisses.」。意味は「彼女たちは誰かの唇が触れることを待ち望み、彼らの口づけを導いた」となる。

歌

言葉に旋律を乗せて口に出すもの。親しい人々が消え、再び孤独となった碇シンジの前に現れた渚カヲル。彼は「心を潤してくれ、リンの文化の極み」だと歌を称した。

裏コード

赤木ナオコが貼り付けたと思しき、カスパー内部のメモに書かれたMAGIプログラムに関する数々のコードのこと。この裏コードおかげで第11使徒イロウルによってMAGIがハッキングされた際、使徒のハッキングよりも早くリプログラミングに成功。自律自爆回避につながった。

企画意図

巨大ロボットアニメの魅力とは？

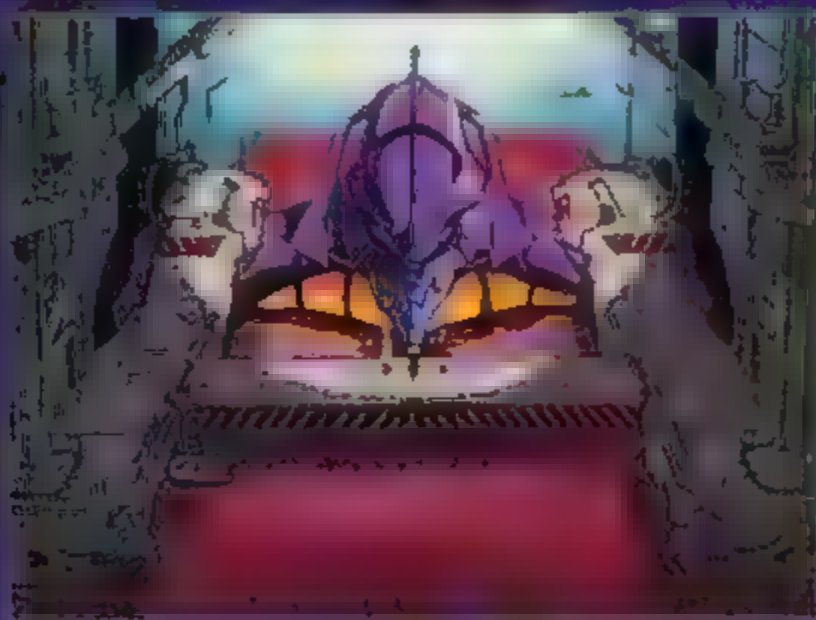
「巨大ロボットアニメ」は、子供たちの潜在欲望の現れであります。
つまり、「巨大ロボットアニメ」とは、
子供達の持つ色々な
抑圧やコンプレックスの補償、抵抗の手段、代償行為なのです。
大人達は、「人が生きることのつらさ」を知っています。
と、同時に「人が生きることのおもしろさ」をも知っています。
生きるために、例え〈嘘〉だとわかっていても
「正義と愛」という〈夢〉や〈希望〉が必要なのだ、と知っています。
私たちはアニメーションという表現手段の特色、つまり、
全てが人の描いた「絵」であるという世界観を生かしたことにより、
子供達に虚構と現実との違和感もなく、ピュアに伝えることができます。
それが「巨大ロボットアニメーション」の持つ最大の魅力です。



本企画は、この原点にさかのぼって
本来の「巨大ロボットアニメ」の魅力を
新たに掘り起こす所にユニークさを発見したいと思えます。

巨大ロボットアニメの魅力

巨大ロボットが「力」の隠喩であることは、巨大ロボットアニメーションを観る上で度々提示される説である。「子供たちの潜在欲望の現われ」と表現された「巨大ロボットアニメーションの魅力」とは、「力」への憧れなのかもしれない。補償、抵抗手段、代償行為など抑圧された場合に求めるものは人それぞれだが、そこには何かしらの「力」への欲求が見え隠れする。革新的な作品とされる「新世紀エヴァンゲリオン」だが、根底にはそんな巨大ロボットアニメーションの原典へ回帰する精神があったようだ。



この世界観における巨大ロボットとは、当然エヴァンゲリオンがその心を震わせたエヴァンゲリオンは身長約40〜800m、厳密には大きさを定められていない。しかし、定められていないことが自由を無くすことで自由度を生む要因となった。

人類の敵である使徒への唯一の抵抗手段こそが汎用人型決戦兵器エヴァンゲリオンである。「力」を以て敵と戦う巨大ロボットに対する子供たちの憧れは、今も昔も変わらぬ普遍的なものと言えよう。



人が生きること

主人公 碇シンジは、作品の中で少しずつ大人へと成長していく。それは彼が「人が生きることのつらさ」そして「人が生きることのぬおもしろさ」を知っていくことでもある。葛藤、憧れ、怒り、希望、そして絶望——内向的だった少年は、人との関わり合いを深める中で様々な経験を積み、自らの殻を破っていく。だが、その結末は既存の作品とは一線を画すものとなる。



主人公である碇シンジは、人と深く関わりあうことが苦手な内向的な少年。しかし、EVAの力によって変わった。そして、ついに自らの殻を破る。



人が描いた「絵」



アニメーションでは非現実的なものから現実の世界の中に描かれる。巨大ロボット、思春期の少年少女、学校生活、果てはペンギンと様々なファクトが虚構と現実の境界を曖昧にする。

「正義と愛」という〈夢〉と〈希望〉の必要性——理想論や方便とも思われがちな形骸化したメッセージだが、アニメという手法ならば虚構と現実の違和感なく伝えることができる。それは「人の描いた絵」によって構築された世界であるからだ。「新世紀エヴァンゲリオン」に勧善懲悪のようなわかりやすさはない。だが、伝えたいことは至ってシンプルである。



エヴァンゲリオン 映像メディア①

日本に初めて登場したアニメーション、以後は高品質な映像とストーリーの面白さから、新世紀エヴァンゲリオンは、従来のアニメーションLD版でもあり、また、当時のアニメーション史上最高枚数に達した作品である。

累計150万枚のセールスを上げたLD版

TV放送が佳境へと突入していた1996年2月、新世紀エヴァンゲリオン のLD、VHSビデオのリリースは開始される。その当時、まだDVDは商品化されていなかったため、映像メディアとしては、日用品のVHSビデオと高画質のLDがメインストリームであった。ただし、LDの普及率は低く、本来それほどセールスの見込めるものではなかった。しかし、「新世紀エヴァンゲリオン」のLDは従来の常識を破る累計150万枚を売り上げ、国内売り上げ最高枚数を記録する。それは現在の主力メディアであるDVD販売枚数と比較しても遜色ない数字だが、LDプレイヤーの世帯普及率が10%にも満たなかった当時の状況を鑑みれば、その販売枚数が常識をはるかに凌駕するものだったとわかるはずだ。

そして、LD、VHSビデオが次々とリリースされる中、1996年3月27日にTV放送は最終回を迎える。新世

紀エヴァンゲリオン はその後もネットや口コミなどを通してさらに大きな話題となり、それはやがて社会現象と呼ばれるまでに成長した。さらに1997年には「新生 DEATH & REBIRTH」、「THE END OF EVANGELION Air/まこころを、君に」の2作品が劇場公開されるに至る。「THE END OF EVANGELION Air/まこころを、君に」は、テレビ版の第貳拾五話、最終話を25、26話としてリメイクしたもので、のちに「Genesis0:13」、および「Genesis0:14」と呼ばれるLD、VHSビデオに収録された。また、劇場版は「新世紀エヴァンゲリオン劇場版BOX-LD」としてもリリース。このアイテムは完全初回限定生産だったため、その人気から入手困難なレアアイテムとなったことでも話題となった。

LD、VHSビデオ版は、約2年間という長いスパンでリリースされたが、それに伴いLD、VHSビデオでは随所に変更修正が施された。特に第貳拾壱話から第貳拾四話に関しては大幅な増補、修正が行われ、オンエア版以上のクオリティになっている。なお、第貳拾壱話から第貳拾四話のオンエア版は、全巻購入特典の「Genesis0:X」に収録され補完されている。このようなファンの細かい要求に応える姿勢が異例のセールスへと繋がった要因と言えるだろう。

特記事項

Genesis 0:0&0:0'

LD・VHSビデオ版の「Genesis0:1」～「Genesis0:14」、および「Genesis0:X」以外に、実は「Genesis0:0 IN THE BEGINNING」と「Genesis0:0' THE LIGHT FROM THE DARKNESS」なるものも存在する。「Genesis0:0」は、「Genesis0:1」リリース前に発売されたいわゆる特別先行映像で、「Genesis0:0'」は、劇場版前売り券とセットで販売されていた。どちらも即日完売したため、実際に入手できた人の少ないレアな逸品である。



「Genesis0:0」と「Genesis0:0'」は、VHSビデオ版のみのアイテム。内容はそれぞれメイキングやインタビューが収録されていた。「Genesis0:0'」は劇場版に関するもの。



LASER DISC **BOX**

新世紀エヴァンゲリオン
劇場版BOX-LD

発売日：1998/12/23
定価：24,999円(税込)
KILA 9401~4 CAV/196分

収録内容

- 新世紀エヴァンゲリオン劇場版 シト新生
EVANGELION: DEATH (TRUE)²
AND
EVANGELION: REBIRTH
- THE END OF EVANGELION
新世紀エヴァンゲリオン劇場版
Air/まごころを、君に

封入特典

- 劇場版絵コンテ
- エヴァンゲリオン初号機プラモデルLMHG(クリスタルバージョン、エヴァシリーズUFOキャッチャー仕様ぬいぐるみ)
- 特製テレフォンカード3枚(三鷹市告知イラストより)
- カードダスマスターズ・プレミアムバージョン18枚
- 綾波レイ・ガシャポン5インチフィギュア/蓄光タイプ・プレミアムバージョン
- 豪華プレゼントが抽選で当たる応募券



LD BOX CONTENTS # 01

新世紀エヴァンゲリオン劇場版
シト新生

EVANGELION: DEATH (TRUE)²
AND
EVANGELION: REBIRTH

スタッフ

- 「DEATH編」(脚本：藤川昭夫、庵野秀明/絵コンテ：摩砂雪/演出：摩砂雪/演出助手：千葉大輔、大塚雅彦、安藤健/作画監督：摩砂雪、貞本義行、庵野秀明)
- 「REBIRTH編」(脚本：庵野秀明/絵コンテ：鶴巻和哉、摩砂雪、庵野秀明/演出：鶴巻和哉/演出助手：大塚雅彦、安藤健/作画監督：黄瀬和哉(キャラ)、本田雄(メカ)/設定補：黄瀬和哉、鶴巻和哉、庵野秀明)



LD BOX CONTENTS # 02

THE END OF EVANGELION
新世紀エヴァンゲリオン劇場版

Air/まごころを、君に

スタッフ

- 「Air」(脚本：庵野秀明/絵コンテ：鶴巻和哉、樋口真嗣、摩砂雪/演出：鶴巻和哉、庵野秀明/演出助手：大塚雅彦、安藤健/作画監督：黄瀬和哉(キャラ)、本田雄(メカ)/設定補：黄瀬和哉、鶴巻和哉、庵野秀明)
- 「まごころを、君に」(脚本：庵野秀明/絵コンテ：庵野秀明、樋口真嗣、碓井昌浩/演出：鶴巻和哉、庵野秀明/演出助手：大塚雅彦、安藤健/作画監督：鈴木俊二、平松禎史、庵野秀明/設定補：黄瀬和哉、鶴巻和哉、庵野秀明)

LD BOX CONTENTS # 03

劇場版BOX-LD (VHSビデオ版も同様)には豪華特典が封入されていた。立体物が3アイテムもあるため、ケースはかなりの大きさに。ちなみに特製テレフォンカードのイラストは、三鷹市役所で年金や水道局の告知ポスターなどに使用されたもの。どの特典も劇場版BOXならではのアイテムで、コレクター性も高い。

- ① 劇場版絵コンテ
- ② エヴァンゲリオン初号機プラモデル LMHG(クリスタルバージョン)
- ③ エヴァシリーズUFOキャッチャー仕様ぬいぐるみ
- ④ 特製テレフォンカード3枚(三鷹市告知イラストより)
- ⑤ カードダスマスターズ・プレミアムバージョン18枚
- ⑥ 綾波レイ・ガシャポン5インチフィギュア、蓄光タイプ・プレミアムバージョン





LASER DISC # 01
新世紀エヴァンゲリオン
Genesis0:1

発売日：1996/2/3
定価：5,913円(税込)
KILA 149 CAV/52分

収録話・タイトル ■第1話「使徒、襲来」(1995年10月4日放映/脚本：庵野秀明/絵コンテ：庵野秀明、庵野秀明/演出：鶴巻和哉/作画監督：鈴木俊二/設定補：あさりよしとお、きお誠児、今掛勇) ■第2話「見知らぬ、天井」(1995年10月11日放映/脚本：榎戸洋司、庵野秀明/絵コンテ：庵野秀明、庵野秀明/演出：鶴巻和哉/作画監督：本田雄/設定補：あさりよしとお、きお誠児)

映像特典 イメージボード集、新番組スポット、TV版15秒予告



LASER DISC # 02
新世紀エヴァンゲリオン
Genesis0:2

発売日：1996/3/6
定価：5,913円(税込)
KILA 150 CAV/48分

収録話・タイトル ■第3話「鳴らない、電話」(1995年10月18日放映/脚本：藤川昭夫、庵野秀明/絵コンテ：鶴巻和哉、石堂宏之/演出：石堂宏之/作画監督：細井信宏/設定補：あさりよしとお、鶴巻和哉) ■第4話「雨、逃げ出した後」(1995年10月25日放映/脚本：藤川昭夫/絵コンテ：基目喜一/演出：加賀ツヨシ/作画監督：重田智)

映像特典 TV版15秒予告



LASER DISC # 03
新世紀エヴァンゲリオン
Genesis0:3

発売日：1996/4/5
定価：5,913円(税込)
KILA 151 CAV/48分

収録話・タイトル ■第5話「レイ、心のむこうに」(1995年11月1日/脚本：藤川昭夫、庵野秀明/絵コンテ：基目喜一/演出：杉山慶一/演出助手：大塚雅彦/作画監督：鈴木俊二/設定補：きお誠児) ■第6話「決戦、第3新東京市」(1995年11月8日/脚本：藤川昭夫、庵野秀明/絵コンテ：庵野秀明/演出：石堂宏之/作画監督：細井信宏/設定補：夢野れい)

映像特典 TV版15秒予告



LASER DISC # 04
新世紀エヴァンゲリオン
Genesis0:4

発売日：1996/5/2
定価：5,913円(税込)
KILA 152 CAV/48分

収録話・タイトル ■第7話「人の造りしもの」(1995年11月15日放映/脚本：榎戸洋司、庵野秀明/絵コンテ：杉山慶一、庵野秀明/演出：杉山慶一/演出助手：大塚雅彦/作画監督：鈴木俊二/設定補：ユギ・ミツム) ■第8話「アスカ、来日」(1995年11月22日/脚本：榎戸洋司、庵野秀明/絵コンテ：樋口真嗣/演出：鶴巻和哉/演出助手：大塚雅彦/作画監督：本田雄/設定補：前田真宏、ユギ・ミツム)

映像特典 TV版15秒予告



LASER DISC # 05
新世紀エヴァンゲリオン
Genesis0:5

発売日：1996/6/5
定価：5,913円(税込)
KILA 153 CAV/48分

収録話・タイトル ■第9話「瞬間、心、重ねて」(1995年11月29日放映/脚本：藤川昭夫、庵野秀明/絵コンテ：樋口真嗣/演出：水島精二/作画監督：長谷川真也/設定補：前田真宏、ユギ・ミツム) ■第10話「マグマダイバー」(1995年12月6日放映/脚本：藤川昭夫、庵野秀明/絵コンテ：加賀ツヨシ、庵野秀明/演出：加賀ツヨシ、石堂宏之/作画監督：重田智/設定補：きお誠児、ユギ・ミツム)

映像特典 TV版15秒予告



LASER DISC # 06
新世紀エヴァンゲリオン
Genesis0:6

発売日：1996/7/5
定価：5,913円(税込)
KILA 154 CAV/49分

収録話・タイトル ■第11話「静止した闇の中で」(1995年12月13日/脚本：榎戸洋司、庵野秀明/絵コンテ：庵野秀明/演出：渡邊哲哉/作画監督：河口俊夫) ■第12話「奇跡の価値は」(1995年12月20日放映/脚本：藤川昭夫、庵野秀明/絵コンテ：庵野秀明/演出：石堂宏之/作画監督：重田智/設定補：ユギ・ミツム)

映像特典 TV版15秒予告



LASER DISC # 07
新世紀エヴァンゲリオン
Genesis0:7

発売日：1996/8/7
定価：5,913円(税込)
KILA 155 CAV/48分

収録話・タイトル ■第13話「使徒、侵入」(1995年12月27日放映/脚本：磯光雄、藤川昭夫、庵野秀明/絵コンテ：岡村天斎/演出：岡村天斎/演出助手：大塚雅彦/作画監督：黄瀬和哉/設定補：磯光雄、黄瀬和哉) ■第14話「ゼーレ、魂の座」(1996年1月3日放映/脚本：庵野秀明/絵コンテ：庵野秀明/演出：大塚雅彦、安藤健)

映像特典 TV版15秒予告



LASER DISC # 08
新世紀エヴァンゲリオン
Genesis0:8

発売日：1996/9/5
定価：5,913円(税込)
KILA 156 CAV/48分

収録話・タイトル ■第15話「嘘と沈黙」(1996年1月10日放映/脚本：藤川昭夫、庵野秀明/絵コンテ：基目喜一/演出：羽生尚靖/演出助手：大塚雅彦/作画監督：鈴木俊二/作画監督補：中山勝一、古川尚哉/設定補：磯光雄、本田雄) ■第16話「死に至る病、そして」(1996年1月17日放映/脚本：山口宏、庵野秀明/絵コンテ：鶴巻和哉/演出：鶴巻和哉/作画監督：長谷川真也/設定補：鶴巻和哉)

映像特典 TV版15秒予告



LASER DISC # 09

新世紀エヴァンゲリオン Genesis0:9

発売日：1996/10/2
定価：5,913円(税込)
KILA 157 CAV/48分

〈収録話・タイトル〉■第拾七話「四人目の適格者」(1996年1月24日放映/脚本：樋口真嗣、庵野秀明/絵コンテ：オグロアキラ/演出：大原実/作画監督：花畑まう) ■第拾八話「命の選択を」(1996年1月31日放映/脚本：樋口真嗣、庵野秀明/絵コンテ：岡村天斎/演出：岡村天斎/演出助手：大塚雅彦、安藤健/作画監督：黄瀬和哉)

〈映像特典〉TV版15秒予告



LASER DISC # 10

新世紀エヴァンゲリオン Genesis0:10

発売日：1996/12/5
定価：5,913円(税込)
KILA 158 CAV/51分

〈収録話・タイトル〉■第拾九話「男の戦い」(1996年2月7日放映/脚本：薩川昭夫、庵野秀明/絵コンテ：摩砂雪/演出：摩砂雪/演出助手：安藤健、大塚雅彦/作画監督：本田雄/設定補：あさりよしとお、摩砂雪) ■第貳拾話「心のかたち 人のかたち」(1996年2月14日放映/脚本：庵野秀明/絵コンテ：鶴巻和哉、庵野秀明/演出：大塚雅彦/作画監督：鶴巻和哉)

〈映像特典〉TV版15秒予告、ノンテロップ・OP&ED、TVスポット(第7巻発売予告)



LASER DISC # 11

新世紀エヴァンゲリオン Genesis0:11

発売日：1997/2/5
定価：5,913円(税込)
KILA 159 CAV/59分

〈収録話・タイトル〉■第貳拾壹話「ネルフ、誕生」(1996年2月21日放映/脚本：薩川昭夫、庵野秀明/絵コンテ：碓目喜一/演出：石堂宏之/作画監督：重田智/設定補：鈴木俊二/レイアウト監修：鈴木俊二) ■第貳拾貳話「せめて、人間らしく」(1996年2月28日放映/脚本：山口宏、庵野秀明/絵コンテ：鶴巻和哉/演出：高村彰/作画監督：花畑まう/メカ作監：吉成曜/設定補：鶴巻和哉)

〈映像特典〉TV版15秒予告



LASER DISC # 12

新世紀エヴァンゲリオン Genesis0:12

発売日：1997/3/5
定価：5,913円(税込)
KILA 160 CAV/53分

〈収録話・タイトル〉■第貳拾参話「涙」(1996年3月6日放映/脚本：山口宏、庵野秀明/絵コンテ：鶴巻和哉、庵野秀明/演出：増尾昭一/演出助手：大塚雅彦、安藤健/作画監督：鈴木俊二/設定補：鈴木俊二、鶴巻和哉) ■第貳拾四話「最後のシ者」(1996年3月13日放映/脚本：薩川昭夫、庵野秀明/絵コンテ：摩砂雪、庵野秀明/演出：摩砂雪/演出助手：大塚雅彦、安藤健/作画監督：摩砂雪/レイアウト監修：真本義行/設定補：鶴巻和哉) 〈映像特典〉TV版15秒予告



LASER DISC # 13

新世紀エヴァンゲリオン Genesis0:13

発売日：1998/8/12
定価：5,913円(税込)
KILA 161 SADI-1 CAV・SADI-2 CLV/69分

〈収録話・タイトル〉■第貳拾伍話「終わる世界」(1996年3月20日放映/脚本：庵野秀明/絵コンテ：鶴巻和哉、庵野秀明/演出：鶴巻和哉/演出助手：大塚雅彦、安藤健/作画監督：本田雄) ■第25話「Air」(脚本：庵野秀明/絵コンテ：鶴巻和哉、樋口真嗣、摩砂雪/演出：鶴巻和哉/演出助手：大塚雅彦、安藤健/監督：鶴巻和哉/総監督：庵野秀明)



LASER DISC # 14

新世紀エヴァンゲリオン Genesis0:14

発売日：1998/9/9
定価：5,913円(税込)
KILA 311 SADI-1 CAV・SADI-2 CLV/68分

〈収録話・タイトル〉■最終話「世界の中心でアイを叫んだだけのもの」(1996年3月27日放映/脚本：庵野秀明/絵コンテ：摩砂雪、鶴巻和哉、庵野秀明/演出：摩砂雪、鶴巻和哉/演出助手：大塚雅彦、安藤健) ■第26話「まごころを、君に」(脚本：庵野秀明/絵コンテ：庵野秀明、樋口真嗣、碓目喜一/演出：庵野秀明/演出助手：大塚雅彦、安藤健/作画監督：鈴木俊二、平松祐史、庵野秀明/監督：庵野秀明/総監督：庵野秀明)

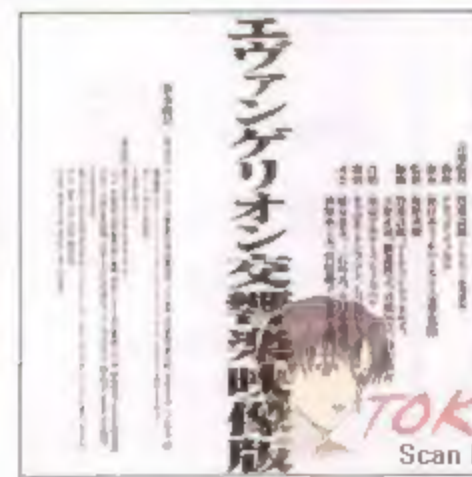


LASER DISC # 15

新世紀エヴァンゲリオン Genesis0:X

非売品 3SLG2 CLV/96分

〈収録話・タイトル〉■第貳拾参話「ネルフ、誕生」(1996年2月21日放映/脚本：薩川昭夫、庵野秀明/絵コンテ：碓目喜一/演出：石堂宏之/作画監督：重田智/設定補・レイアウト監修：鈴木俊二) ■第貳拾貳話「せめて、人間らしく」(1996年2月28日放映/脚本：山口宏、庵野秀明/絵コンテ：鶴巻和哉/演出：高村彰/作画監督：花畑まう/メカ作監：吉成曜/設定補：鶴巻和哉) ■第貳拾参話「涙」(1996年3月6日放映/脚本：山口宏、庵野秀明/絵コンテ：鶴巻和哉、庵野秀明/演出：増尾昭一/作画監督：鈴木俊二/設定補：鈴木俊二、鶴巻和哉/演出助手：大塚雅彦、安藤健) ■第貳拾四話「最後のシ者」(1996年3月13日放映/脚本：薩川昭夫、庵野秀明/絵コンテ：摩砂雪、庵野秀明/演出・レイアウト・作画監督：摩砂雪/レイアウト監修：真本義行/設定補：鶴巻和哉/演出助手：大塚雅彦、安藤健)



LASER DISC # 16

エヴァンゲリオン 交響曲

発売日：1998/9/9
定価：5,913円(税込)
KILA 339
Scan by rojuntou

〈スタッフ〉音楽監督：鷺巣詩郎/指揮：デリック・イノウエ/演奏：新日本フィルハーモニー/監修：庵野秀明/編曲：鷺巣詩郎、マーティン・ラッセルズ、天野正道、服部隆之、斎藤恒芳、篠原敬介/合唱：東京アカデミッシュ・カベレ/歌唱：キャロル・トンプソン、LOREN、[RAP] MARI/司会：緒方恵美、三石琴乃、山口由里子、林原めぐみ、宮村優子、長沢美樹

創刊記念限定フィギュア 誌上通販のお知らせ



本体価格(税込) 1,500円
送料(税込) 480円

- 高さ: 約13cm
- 非フタル酸PVC製
- 塗装済み完成品
- スタンド付き
- ウィンドウボックス仕様
- 輸送用ボックスに入れてのお届けになります。
- 監修: ガイナックス
- 企画協力: やまと

「エヴァンゲリオン・クロニクル」創刊を記念して、オリジナル・フィギュアを誌上限定販売いたします。第1弾は、エヴァの象徴とも言うべき綾波レイ。原型製作は、数々の名作を手掛けた人気原型師集団Cerberus Project TM (ケルベロスプロジェクト)です。ケルベロスプロジェクトがエヴァを手掛けるのは、意外にも今回が初めて。まさにファン待望のフィギュアと言えるでしょう。貞本氏の描く繊細なラインを忠実に再現しながらも、はっきりとした主張を感じるアレンジが施され、いつまでも見飽きる事はありません。各部の素材の違いをも再現した絶妙な彩色は、ぜひ手にとって確かめていただきたい出来映えです。エヴァンゲリオンの新たな10年の門出を祝うに相応しい、ケルベロスプロジェクトの綾波レイフィギュア。ぜひ、あなたのコレクションに加えてください。

EVANGELION C H R O N I C L E

創刊号付属の
購入券を
ハガキに貼って
お申し込み下さい。



※購入券ははがれないようしっかりと留めてください。
※購入券がコピーである場合には無効となります。



郵便はがき

恐れ入りますが
50円切手を
お貼り下さい。

171-8464

誌上限定販売第2弾は、
もちろんあの方。
詳しくは本誌3号を
ご覧ください。

東京都豊島区南池袋1-13-23
池袋YSビル5F

「エヴァンゲリオン・クロニクル」

通信販売受付事務局

綾波レイ フィギュア申込受付係①

誌上限定フィギュア申込書

フリガナ				性別	男 女
氏名(漢字)					
電話番号	-	-			
お届け先住所 ※商品のお届け先となります。	郵便番号	〒	-		
住所1(都道府県)					
住所2(市区群番地)					
住所3(建物名および部屋番号)					

「申込注意事項」

- 申込期限 7月15日～8月31日(当日消印有効)
- 振込期限 9月20日まで(当日振込有効)
- 商品発送予定 12月発送予定

※受注生産商品のため、発送予定日より遅れる場合があります。

お申込の際には、添付の申込はがきに前号付属の購入券を必ず添付の上、お申してください。その際、申込はがきの表面と、購入券を貼りつけた状態の裏面をコピーして、お手元にお控えください。お申込はがき到着後、振込み用紙をお送りいたしますので、振込期限内にお振込みください。

- ※ 申込はがきの到着について、事務局からご連絡は致しておりません。
- ※ 1枚の申込はがきで1個のお申込となります。
- ※ 応募方法に不備(購入券無し、記入漏れ、誤記等)がある場合には、応募無効とさせていただきます。
- ※ ご記入いただいた個人情報は商品・サービスをお届けするために利用し、その目的以外での利用はいたしません。
- ※ 住所変更等のあった場合はすみやかにご連絡ください。

誌上通販に関するお問い合わせ先

〒171-8464
東京都豊島区南池袋1-13-23 池袋YSビル5F
「エヴァンゲリオン・クロニクル」通信販売受付事務局
Tel: 03-5951-1936
受付時間: 平日(月～金) 10:00～18:00 (土日祝休)

EVANGELION CHRONICLE

エヴァンゲリオン・クロニクル



03 次号予告

2006/8/1 発売 定価 690円

Mechanic Sheet

エヴァンゲリオン式号機 1

国連軍兵器 3

Character Sheet

惣流・アスカ・ラングレー 1

NERVスタッフ

Timeline Sheet

使徒、襲来

Tactics Sheet

第4使徒シャムシエル戦

Installation Sheet

ジオフロント

Technology Sheet

プログレッシブ・ナイフ

Extra Sheet

用語辞典／企画書／トピックス

専用バイダーにファイルすれば
キミだけの機密ファイルが完成!!

「エヴァンゲリオン・クロニクル」は、メカニックやキャラクターなど各テーマによって色分けされ、7種類ある各シートに分類されている。その各ページを専用バイダーに綴じていくことで、エヴァンゲリオン大百科が完成する。

専用バイダー



専用
ディ
バイ
ダー
付
き

価格 1,600円 本体1,524円+税

専用バイダーで
エヴァンゲリオン大百科を完成させよう!

専用バイダーの使用方法

01 シートを切り離そう



「エヴァンゲリオン・クロニクル」をファイリングするため、まずは各ページをひとつひとつ丁寧に切り離していこう。

02 ディバイダーを使おう



専用バイダーには、メカニックやキャラクターなど各テーマごとに色分けされたディバイダー(仕切り用紙)が付く。

03 ファイルナンバーの順に ファイリングしよう



1で切り離したページをディバイダーで7つのテーマに分類し、各ページをシートナンバー順にファイリングしよう。

04 全号集めれば大百科が完成



全号をファイリングすること
「エヴァンゲリオン大百科」
のすべてを網羅したビジュアル大百科が完成!!

※ファイリングの際には、バイダーの金具で手をはさまないように、十分にご注意ください。